

文部科学省委託事業

令和3年度 地域との協働による
高等学校教育改革推進事業
地域魅力化型（第2年次）

ま つ ナ ビ プ ロ ジ ェ ク ト

研究開発実施報告書



令和4年3月

長崎県立松浦高等学校

〈巻頭言〉

「シン化する^{まなびや}学舎」を目指して

長崎県立松浦高等学校 校長 小野下 和宏

令和3年度の松浦高等学校（松高）「まつナビ・プロジェクト」は、コンソーシアム、運営指導委員会、県教育委員会をはじめとする関係の皆様への御支援、御協力により、研究開発の充実を図ることができました。心から感謝を申し上げます。

昨年度から続く新型コロナウイルスの影響は、本年度においても決して小さなものではありませんでした。研究開発の集大成として位置付けている「課題研究発表会」は2回の延期を余儀なくされ、現在予定している令和4年3月中旬の開催についても不透明な状況にあります。

本年度の「まつナビ・プロジェクト」では、前年度の検証を踏まえ、「生徒たちが『自分ごと』として探究活動を進めること」をテーマとして、カリキュラムの工夫、多様な課題研究への支援体制づくりに取り組んで参りました。

特に、課題研究活動への継続的な支援を行うファシリテーターは、「生徒たちの『自分ごと』としての探究活動」を進める上で重要な役割を果たします。松高では、松浦市職員をはじめとするコンソーシアムメンバーと松高教職員が協働して生徒の探究活動を支えています。この報告書では、ファシリテーターとしてプロジェクトに参画した松高教職員が「どのような気持ち（マインド）で生徒たちの支援にあたったのか」をコラム「ファシリテーターへの道」としてまとめています。また、カリキュラム開発の一環として実施した生徒の探究活動のうち、ファシリテーターとしてのスキルアップにつながる内容についてもピックアップしていますので、地域を素材とした生徒の探究活動に取り組んでいる皆様に参考といただければ幸いです。

次年度から松高では、文部科学省・県教育委員会による「普通科改革」の考え方を踏まえ、新しい普通科である「地域科学科」を導入いたします。変革期を迎えるにあたり、松高の将来像を「生徒一人一人が自らのキャリアプランニングを踏まえて、各教科の学びと「まつナビ」を^深め、社会の変化に対応できる「課題解決能力」と「ふるさとを大切に作る姿勢」等を身につけ^伸ばすことで、キャリア形成（希望する^進路の実現）を図る高等学校」とし、キャッチフレーズとして、「“シン化する”学舎（まなびや）それが松高 ～ 学びを“深”める。力を“伸”ばす。

“進”路実現を図る。～」を設定いたしました。

次年度、「まつナビ・プロジェクト」は指定最終年度を迎えます。松高の将来像を念頭に置き、本年度の研究開発を多角的に検証し成果と課題を明らかにした上で、松高を支援してくださっている地域の皆様、「自分ごと」としての探究活動に取り組む松高生と共に、プロジェクトの一層の充実を図っていききたいと考えております。

今後も松高の教育活動の根幹であり続ける「まつナビ・プロジェクト」に御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。巻頭の言葉といたします。

令和3年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業(地域魅力化型) 長崎県立松浦高等学校 研究開発実施報告書(第2年次) 目次

巻頭言	1
第1章 研究開発計画及び研究開発の概要	
1. 本校の概要	4
1-1 所在地	
1-2 設置課程及び在籍生徒数(令和3年4月)	
1-3 学校経営方針	
1-4 令和2年度グランドデザイン	
2. 研究構想～研究の目標と仮説～	8
3. 令和3年度研究開発の実施計画	10
4. 令和3年度研究開発の概要	12
第2章 研究開発の内容①(研究開発単位Ⅰ)	
1. はじめに	14
1-1 研究開発単位の設定	
1-2 活動目標	
1-3 活動の概要	
2. プレまつナビ(第1学年)	15
2-1 研究開発のねらい	
2-2 令和3年度の実践活動	
2-3 実践報告	
2-4 成果と課題	
3. まつナビ(第2学年)	33
3-1 研究開発のねらい	
3-2 令和3年度の実践活動	
3-3 実践報告	
3-4 成果と課題	
4. ポストまつナビ(第3学年)	66
4-1 研究開発のねらい	
4-2 令和3年度の実践活動	
4-3 実践報告	
4-4 成果と課題	

第3章 研究開発の内容②(研究開発単位II)

1. はじめに	70
1-1 研究開発単位の設定	
1-2 活動目標	
1-3 活動の概要	
2. コンソーシアム	72
2-1 構成	
2-2 活動実績	
3. 運営指導委員会	73
3-1 構成	
3-2 活動実績	
4. カリキュラム開発等専門家	74
5. 地域協働学習実施支援員	75


第4章 まつナビ・プロジェクトの検証、次年度に向けて

1. 今年度の目標設定についての検証	76
2. 次年度に向けて(課題改善の方向性)	78

参考資料

1. 生徒の意識調査～令和3年度4月、1月実施のアンケート調査結果～
2. まつナビ・プロジェクトだより

本冊子の中に「ファシリテーターへの道」というコラムがあります。ここにはファシリテーター・マインドについて記載しております。

また、スキルアップについては  のマークを入れていますので、参考にしてください。



各種発表会の要項や本冊子に掲載した★のついたワークシート等は、本校 Web ページからダウンロードできます。

<http://www2.news.ed.jp/section/matsuura-h/>

まつナビ・プロジェクト

検索

CLICK!

第1章 研究開発計画及び研究開発の概要

1. 本校の概要

1-1 所在地

〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免738-1

1-2 設置課程及び在籍生徒数(令和3年4月)

	1年	2年	3年	計
普通科	57	59	42	158
商業科	28	35	16	79
合計	84	94	58	237

1-3 学校経営方針

1 校訓

「自己開拓」に全力を注ごう。
正しい人間関係をきずいていこう。
よい市民性を身につけよう。

2 スクールミッション(教育方針)

地域と協働して、一人一人の生徒を大切に育む、地域に信頼される学校づくりをすすめる。
普通科、商業科の学びとあわせて、地域課題解決型学習を進めることで、生徒一人一人が、社会の変化に対応できる「課題解決能力」と「ふるさとを大切にする姿勢」を身に付けることで、自らのキャリア形成(進路希望実現)を図る。

3 育成したい生徒像

- (1) 将来の目標を持ち、その実現に向けて努力を続ける人物(キャリア形成力)
- (2) 責任感があり、相手を思いやることができるなど品性を備えた人物(責任行動力)
- (3) 地域を大切に思い、その発展に貢献しようとする意欲を持つ人物(ふるさと貢献力)

4 本年度の重点目標

- グランドデザインを起点とした、カリキュラム・マネジメントの推進
 - ・ 「育成を目指す人物像」及び教育活動目標「支えあい、伸ばしあう学びの推進」、「一人一人の進路希望の実現」を踏まえた、各教育活動の「充実」と「見える化」の推進
- 進路指導とまつナビ・プロジェクトとの関連を強める等、生徒のキャリア形成を組織的に支援
- 「まつナビ・プロジェクト」コンソーシアムとの連携などによる、発信力の強化

(1) 支えあう学校づくり(生徒指導の充実と教育相談の推進)

- ① 生徒理解に基づく支援・指導を進めることなどによる、「温かい人間関係」の構築

- ②自他の命、健康・安全を守ることを最優先とし、相手への思いやりのある言動を心がけさせることなどによる、責任感をもって行動できるなどの「品性」の育成
- (2) 伸ばしあう学校づくり（生徒が主役の活動及び「キラリ」と光る部活動の充実）
 - ①生徒会活動への支援などによる、生徒の自発的かつ自主的な活動の充実
 - ②各部活動で設定した目標の実現を目指すとともに、生徒の「人間力」を伸ばす活動の推進
- (3) 生徒一人一人のキャリア形成を組織的に支援（進路希望の実現）
 - ①生徒一人一人に「わかった」「できた」という気持ちを喚起させる、ICTの活用を含む授業実践
 - ②計画的なキャリアプランニングによる、生徒のキャリア形成（進路希望の実現）
- (4) 「まつナビ・プロジェクト」を核とした教育活動を進めることで、生徒の「資質・能力」を育成
 - ①生徒の「自分ごと」としての課題研究活動と各教育活動の連携を図り、「課題解決能力」を育成
 - ②コンソーシアムとの「協働」の推進等により、「地域を大切にする姿勢」を組織的に育成
- (5) 教職員の「ワーク・ライフ・バランス」の推進
 - ①教職員の創造性を高め、生徒の成長に資する教育活動を持続的に行う環境づくりの推進

1-4 令和3年度グランドデザイン

次の(1)～(4)をねらいとした「令和3年度グランドデザイン」を作成した（8ページ参照）。

(1) 「松高の特色」をわかりやすく示す

本校が目指している教育（人育て）とはどのようなものなのか、そのためにどのような活動を行っているのか、できるだけシンプルにまとめ、「松高は、このような学校である」と示す。

(2) カリキュラムマネジメントの契機とする

カリキュラムとは「松高の教育活動全般」を、マネジメントとは「PDCAの各段階をへて、教育活動をよりよくしていくこと」を意味しており、「グランドデザイン」を各種教育活動のP（プラン）の「基礎となるもの」と捉え、「学校教育全体を鳥瞰できる図」として作成する。

「グランドデザイン」で示した理念（基本計画）を踏まえ、教育活動全般についてPDCAサイクルを回しながら、着実に改善を図り、ビジョンに示す「変化の激しい時代を生き抜く力」「ふるさとに貢献する意欲と力を持つ人物の育成」を進めることを目指している。

※（注）P（計画）、D（実践）、C（検証）、A（改善策の策定）を指す。

(3) 生徒と教職員が力をあわせて「魅力ある学舎（まなびや）づくり」を進める

松高生、教職員が「グランドデザイン」を踏まえた教育活動を実践し、その後検証を行い、よりよい学校づくりを進めていく。そのことによって、生徒たちにとって「学びがい」のある、教職員にとって「働きがいのある」、魅力ある学舎（まなびや）をつくっていくこと、あわせて、保護者の皆様や地域の方々とともに教育活動を進め、「ふるさと松浦とともにある」「信頼される」学舎を目指す。

(4) 「松高の魅力」の発信力を高める

「グランドデザイン」を踏まえた各種の教育活動を、「松高の魅力」として、多くの方々に各種媒体を活用してお知らせする。学校全体としての発信力を高め、わかりやすく・見やすい情報を、中学生や地域の方々に、できるだけ多くお届けし、「グランドデザイン」による教育活動（松高の魅力）を多くの方々に知っていただくことを目指す。

また、「グランドデザイン」は、「求める入学生像」「主な教育活動等」「育成を目指す人物像」のつながりを示すシンプルな構成としている。

「求める入学生像」は、「このような意欲・力（ちから）等を持っている中学生に入学し、学んで欲しい」との、松高としての「入学者を受け入れる姿勢・考え方（アドミッションポリシー）」を示している。松高が入学生に求めているのは、「意欲」であり、その在り方は、一人一人の生徒で異なるが、「がんばりたいことがある」「伸ばしたいもの（力）がある」などの「前向きな姿勢」を求めている。

松高での3年間の「教育活動等」については、「支えあい、伸ばしあう学びの推進」「生徒の進路希望の実現」の2つの目標の達成を目指す、「6つ特色」として整理している（カリキュラム・ポリシー）。松高の教育活動において不可欠となっているのが、「松浦市による就学支援」である。補習費や模擬試験・検定等の費用等、多岐にわたる支援をしてくださっている。

そして、各種の教育活動の中心に置いているのが、高校3年間を通じて地域課題解決型学習を深めていく「まつナビ・プロジェクト（MNP）」である。令和2年度から文部科学省の委託を受け、松浦市や長崎大学などの学校外の機関と連携・協働するコンソーシアムを立ちあげ、学びを進めていく。MNPを松高の教育活動全体とリンクさせ、相互に補完しあうことができるように、計画的に実践を進めていく。また、松浦市内の小中学校や県内外の大学、企業等との連携を図る「開かれた学び」「組織的なキャリア形成」を推進する。下段には、「育成を目指す人物像」として、「松高の3年間で、生徒が身に付けることを目指す力」を示している（ディプロマ・ポリシー）。

校訓にある「自己開拓」「正しい人間関係」「よき市民性」につながる素養、変化の激しい社会を生き抜くとともに、ふるさとに貢献するための資質能力。生徒たちがこれらの力を身に着けることができるよう、卒業までの3年間の教育活動を計画的・継続的に進めていく。

これらを踏まえて、令和3年度の松高のキャッチフレーズを、「松高アイデンティティ 支えあい、伸ばしあう ふるさと松浦とともにある学舎（まなびや）」とし、次の活動に力を入れていくことを示した。松高生は、それぞれの目標に向け、日々の生活の中で仲間たちと支えあいながら力を伸ばしていく。保護者・地域・松浦市などの関係の皆様、そして私たち松高教職員が力をあわせ、松高生をしっかりと支えていく。

特に松高生は、「まつナビ・プロジェクト（MNP）」をはじめとする松高の学びの中で、「ふるさと」について調べ・考え・発表し、ふるさとへの思いと課題解決能力を醸成していく。

令和3年度 グランドデザイン

長崎県立松浦高等学校



R3. 4. 5

設置学科

○ 普通科 ○ 商業科

**スクール
ミッション**

○ 地域と協働して、一人一人の生徒を大切に育む、地域に信頼される学校
○ 普通科・商業科の学びと併せ、地域課題解決型学習を進めることで、生徒一人一人が、社会の変化に対応する「課題解決能力」と「ふるさとを大切にす姿勢」を身に付け、自らのキャリア形成（進路実現）を図る

**キャッチ
フレーズ**

松高アイデンティティ
～支えあい、伸ばしあう ふるさと松浦とともにある学舎～ まっぴや

求める入学生像（「意欲」ある中学生）

- 将来の目標を見つけ、その実現に向けてがんばりたい
- 高校の活動（学習、部活動、学校行事等）に積極的に取り組みたい
- 相手のことを考えた言動ができるなど、人間的に成長したい
- 「ふるさと学習」を深めたい

松高「6つの特色」（主な教育活動等）

「まっぴりー」



目標	支えあい、伸ばしあう学びの推進	一人一人の進路希望の実現
生徒が「主役」の活動 ・生徒会が中心となった行事の企画・運営 ・ボランティア活動などの生徒の自発的な活動の充実	まっぴや・プロジェクト (文科省研究委託) 地域課題の解決策について考察提言、実践 松浦市・長崎大学をはじめとする学校外の組織等との協働学習	「わかる」「できる」授業 ・一人一人を大切にした授業 ・ICTを有効活用し、各教科の関連を深めることなどによる、「資質・能力」を伸ばす授業
「キラリ」と光る部活動 ・生徒の「人間力」を伸ばす活動を推進 ・九州や全国での活躍など、各部で「目標」に向け活動		組織的なキャリア・プランニング ・地元企業や大学等と連携し「自分と将来」を知り考える ・「ポートフォリオ」を活用した記録の蓄積とふりかえり
松浦市による就学支援（補習費、模試・検定等の費用の補助 等）		

育成を目指す人物像（松高卒業までに身に付ける資質・能力）

- 将来の目標を持ち、その実現に向けて努力を続ける人物（キャリア形成力）
- 責任感があり、相手を思いやることができるなど品性を備えた人物（責任行動力）
- 地域を大切に思い、その発展に貢献しようとする意欲を持つ人物（ふるさと貢献力）

2. 研究構想～研究の目標と仮説～

平成25年度、松浦市内唯一の高校である松浦高校への入学者の減少などもあって、松浦市による、松浦高校の生徒（松高生）を対象とした就学支援制度が創設された。

また、平成29年度から松浦市と松浦高校が協働して、学校の魅力を高めことなどを旨とした、地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動が始められた。

これが「まつナビ」である。

この課題研究活動は、2年生全員を複数の研究班に分け、松浦市役所職員が班毎のファシリテーターとなり、学年担当教職員とチームを組んで生徒の課題研究を支援する体制で始められた。

「まつナビ」を進化・深化させた新たな地域課題解決型学習が、「まつナビ・プロジェクト（MNP）」であり、本プロジェクトの目的及び仮説は、以下のとおりである。

【目標】

- ・ 地域を愛し大切にすることを育成すること
- ・ 課題解決能力を高めること

【仮説】

「まつナビ」で培った課題研究の進め方と生徒の支援の在り方を、より充実させることができれば、この目標の達成を図ることができるであろう。

なお、充実を図る方向性として考えられるのは、以下の2項目である。

- ・ 高校2年生だけであった取組を、1～3年生の3年間の継続的・計画的な取組とする
- ・ 生徒の課題研究を組織的に支援する体制を構築する

この仮説に基づき、研究開発の目標を達成するために、次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設けて、研究開発を行うこととした。

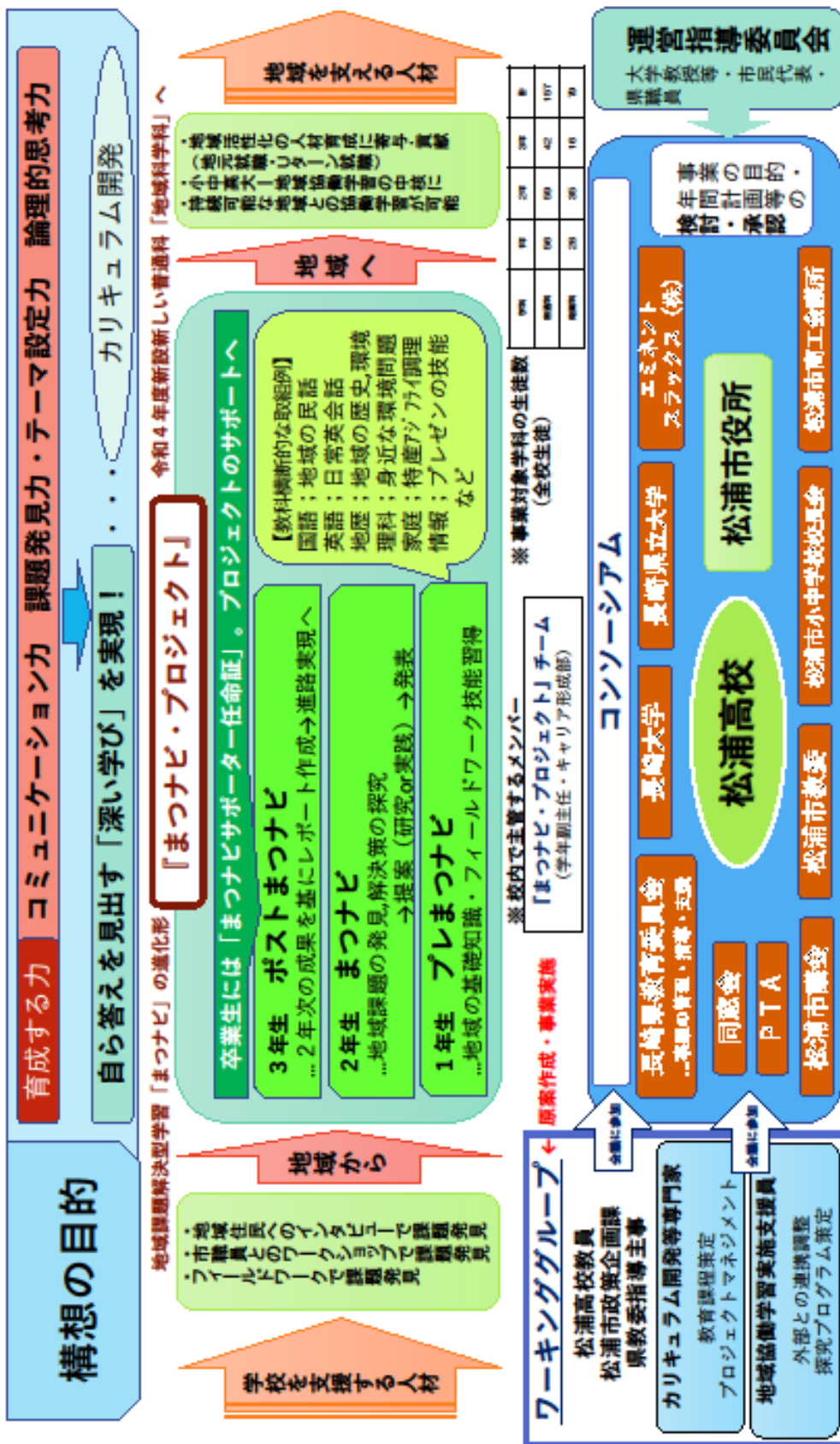
- I 地域を愛し大切にすることを育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
 - ・ 「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設）
 - ・ 地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする授業実践に関する研究開発
 - ・ 小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発
- II コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

文科省委託 令和3年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）

長崎県立松浦高等学校



研究開発構想名：松浦高校「まっナビ・プロジェクト」
 ～「ブレまっナビ」・「まっナビ」・「ポストまっナビ」を通しての、3年間の地域課題解決型学習と自らのキャリアデザイン構築～



3. 令和3年度研究開発の実施計画

前節の「2. 研究構想～研究の目的と仮説～」を踏まえ、以下の「研究開発の実施計画」を策定し、研究開発を進めた。

■研究開発の実施計画

指定期間	ふりがな	ながさきけんりつまつうらこうとうがっこう				②所在 都道府県	長崎県
令和2～最大3年間	①学校名	長崎県立松浦高等学校					
③対象 学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	松浦市唯一の県立高校として、普通科80名、商業科40名を募集し、現在は計237名が在籍している。	
普通科	56	59	42		157		
商業科	28	35	16		79		
⑥研究開発 構想名	松浦高校『まつナビ・プロジェクト』						
⑦研究開発 の概要	<p>長崎県立松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、生徒の課題解決能力を高めること等を目指した、3年間の連続性のある「まつナビ・プロジェクト」に進化させる。次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し、研究開発を行う。</p> <p>Ⅰ 地域を愛し大切に育てる姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設） ・地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科指導に関する研究開発 ・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発 <p>Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発</p>						
⑧ 研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1)目的・目標</p> <p>従来、2年生だけで取り組んできた「まつナビ」を、3年間を通しての学びとなるように組み直すとともに、地域等と協働を強め、高校生ならではの実践や課題研究に取り組ませることで、地域の活性化を身近に感じさせ、本気で松浦の未来を担いたいと考える人材を育成することを目的とする。</p> <p>また、松浦市唯一の高校であることから、地域に関する知識を身につけさせるとともに、地元の方にインタビューしてその知見を聞き取ったり、地域課題について調査し、その解決策について考察・まとめをし、プレゼンテーションをしたりする実践に取り組ませる。そのことによって、将来的に地域を愛し大切に育てる人間性と、生涯にわたり地域課題に向き合い続けようとする姿勢を育むことを目標とする。</p> <p>(2)現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>本県では若者の流出や人口減少が著しく、地域を担う人材不足が深刻化している。</p>					

	<p>そのため県内の多くの地域において、高校と地元自治体等が協働して、地域活性化に資する人材の育成に取り組んでおり、これらの取組をさらに充実させ、持続可能なものにするのが求められている。</p> <p>各教科における地域素材を活かした授業実践を含む、3年間を見通した「まつナビ・プロジェクト」の実践を進め、コンソーシアムを中心とした多角的な支援を受けた、地域との協働の機会を増やすことで、校内だけではできない主体的で対話的な深い学びが実現し、地域へ寄与・貢献しようという強い意欲を持ち、高い課題解決能力を身につけた人材が育成される。あわせて、地域課題研究を中心としたカリキュラムと、コンソーシアム構築のノウハウを県内に広く普及させることができる。</p>
<p>⑧-2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>第1学年</p> <p>第2学年で実施する「まつナビ」の実施に向けて、松浦に関する基礎知識やフィールドワークを含む課題研究活動を進める技能を身につけさせる。年間を通じて、地域素材を活用した授業の実践を行い、フィールドワーク等や課題研究発表に関する技能の習得を進め、1年間のまとめとして、2年次における「まつナビ」のテーマを設定する。</p> <p>第2学年</p> <p>地域課題解決を目指した「まつナビ」の実践を行う。フィールドワークや地域との協働活動に基づく調査・研究・実践を進め、中間発表を行う。コンソーシアム等による評価を受けて、テーマ再設定や発表内容の修正後、本発表を行う。いくつかの班は松浦市文化会館で松浦市長及び市議会議員の前で提言を行う。</p> <p>第3学年</p> <p>第2学年の本発表で提言した内容に関する実践、「まつナビ・プロジェクト」全体を通じた振り返りレポート作成及び小・中学生を対象とした発表等を行う。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>キャリア形成部や学年副主任で組織する「プロジェクトチーム」が中心となって、課題研究活動を含む校内外の教育活動全般の企画・実施・評価について検討する。また、「プロジェクトチーム」、松浦市政策企画課等で組織する「ワーキンググループ」において、実施計画等について再検討の後、コンソーシアムに「まつナビ・プロジェクト」における活動内容等について報告し、今後の研究活動等の進め方について協議を行う。また、コンソーシアムは研究活動への具体的な支援を行う。</p> <p>運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させる。</p> <p>なお、カリキュラム開発等専門家は持続可能なカリキュラム及び評価に関する助言等を、地域協働学習実施支援員は外部との連携調整や課題研究活動プログラム策定等の支援にあたる。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 特記事項なし</p>

4. 令和3年度研究開発の概要

(1) 研究開発の内容や地域課題研究の内容（類型の趣旨に応じた取組）

類型（地域魅力化型）の趣旨を踏まえ、地域ならではの新しい価値を創造する人材として不可欠となる、地域を大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目的とした、高校3年間をつなぐ地域課題解決型学習を進めた。

なお、令和3年度の研究開発単位毎の活動目標を以下のように設定し、研究開発を行った。

〈研究開発単位Ⅰ〉

生徒たちの「地域を愛し大切にすることを姿勢と課題解決能力」を育成するため、高校3年間をつなぐ地域課題解決型学習を進める。

〈研究開発単位Ⅱ〉

地域課題解決型学習を組織的に支援する体制を新たに立ち上げると共に、具体的な研究支援を連携して進める。

(2) 令和3年度の課題研究活動

グランドデザインを踏まえ、地域の方々と協働しながら PDCA サイクルを回す組織マネジメントを進めることによって「教育目標の達成」「学校の魅力化」を目指して、研究開発を行った。

次ページ図は、令和3年度課題研究活動のまとめである。

なお、詳細な研究開発の内容については、第2章および第3章等で示す。

(3) 成果の普及方法・実績

① 「まつナビ・プロジェクト（MNP）だより」発行（2回発行）

生徒の活動状況を伝えるために、松浦市内外の小・中学校に配付したり、本校ホームページ上に掲載したりした。なお、今年度の記事は全て生徒が分担して作成した。

② Web 発信

ホームページ上に「まつナビ・プロジェクト」専用のカテゴリを作成して、生徒の活動状況を地域などに広く伝えるために随時更新を行った。

③ 校内発表会（1月19日実施）

本校コモンホールで実施。生徒が研究・実践した内容について2年生10班（13プロジェクト）の研究発表を実施した。コロナ禍を踏まえ、参観者は、校外審査員3名に限定し、その他の2年生、1年生は校内オンラインで参加した。

なお、当発表会で選出された5つのプロジェクトは、長崎県内の公立高校教職員や松浦市市内小中学校の教職員と研究内容を共有すること、また、松浦市の施策に生徒の提言を反映させることを目的として、2月10日（木）開催予定していた課題研究発表会は新型コロナウイルス感染状況の拡大防止を考慮して延期とした。（3月17日（木）に松浦市文化会館ゆめホールにて実施予定）

第2章 研究開発の内容①(研究開発単位 I)

1. はじめに

1-1 研究開発単位の設定

まつナビ・プロジェクト（MNP）の研究開発の目的を達成するために、以下の開発単位を設定した。

- I 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高校3年間を通して地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
- ・「まつナビ・プロジェクト」の中心となる学校設定科目の研究開発（令和3年度新設）
 - ・地域素材を活用した、「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科指導に関する研究開発
 - ・小中学校及び大学等との連続性のある学びに関する研究開発

1-2 活動目標

令和2年度の活動目標は以下の通りである。

高校生の「地域を愛し大切にする姿勢と課題解決能力」を育成するため、高校3年間をつないだ地域課題解決型学習を進める

1-3 活動の概要

(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け教科・科目や総合的な学習（探究）の時間、学校設定教科・科目等）

学校設定科目である「まつナビ（2年生）」「プレまつナビ（1年生）」（毎週水曜日7校時目）を中心に、地域との協働による探究的な学びを進めた。発表会（準備）や校外活動を行う場合には、水曜日6校時目の総合的な探究の時間も含めながら、連続する活動時間を設定した。各教科・科目においては、「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築することを目指し、地域素材の活用を含む、設定した資質能力の育成を図るための授業実践に取り組んだ。

(2) 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組

各教科・科目において、地域との協働による探究的な学びである「まつナビ・プロジェクト」との相互補完関係を構築するため、育成を図る資質・能力として、「課題発見力（テーマ設定力）」、「論理的思考力」、「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」を設定した。これらの資質・能力の育成を図る授業実践を各教科・科目の授業に組み込むことで、各科目における学習を相互に関連させ、教科横断的な学習とすることを目指した。その充実を図るために、7月に「チャレンジ授業月間」を行った。また、11月には「公開授業月間」において、全教職員で公開授業を実践し、意見交換を進めた。

2. プレまつナビ(第1学年)

2-1 研究開発のねらい

第2学年で実施する「まつナビ」の実施に向けて、松浦に関する基礎知識やフィールドワークを含む課題研究活動を進める技能を身につける。年間を通じて、地域素材を活用するなどの授業実践を行い、フィールドワーク等や課題研究発表に関する技能の習得を進め、1年間のまとめとして、次年度における「まつナビ」の課題研究テーマを設定する。

2-2 令和3年度の実践活動

業務項目		実施日程												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1年	(1) 地域素材を活かした授業実践				1回		随時実施							
	(2) フィールドワークを含む課題研究活動に関する技能習得	1回	2回											
	(3) 松浦市内バスツアー			3回	1回		1回	1回						
	(4) 研究テーマ設定								2回	2回	2回		1回	

* 2月は、新型コロナウイルスに伴う分散登校やまん延防止重点措置等により課題研究が実施できなかった。

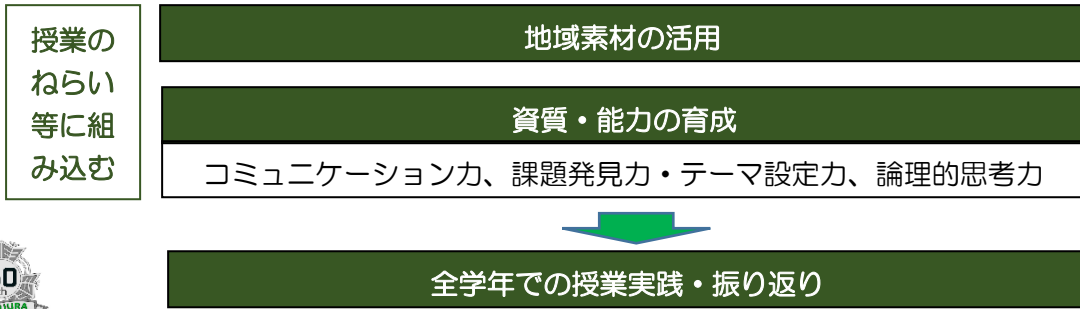
2-3 実践報告

「地域ならではの課題」についての基礎的な知識や地域課題解決型学習を進めるための技能等を身に付けるために校内外の学習を行った。また、次年度に向けた研究テーマ設定に取り組んだ。

(1) 地域素材を活かした授業実践

地域素材の活用に加えて、まつナビ・プロジェクト（MNP）で育成を図る資質・能力（「コミュニケーション力」、「課題発見力・テーマ設定力」、「論理的思考力」）の育成、及び生徒の一人1PCを使って、情報通信技術を効果的に活用した、分かりやすく深まる授業の実現等技能を高めるための授業準備を、今年度当初から全学年で進め、7月にチャレンジ授業、11月に全教職員による公開授業及び意見交換を行った。

■「まつナビ・プロジェクト」とリンクする教科の授業実践についてのイメージ



【授業実践例】

教科・科目 実施日	授業内容	MNPとリンクする教科の授業実践における具体的な目標
地理B 7月12日 チャレンジ授業	世界の環境問題から、松浦市の環境問題について考え、パワーポイントを作成し、それを自分の言葉で発表する。	地域素材を活用して具体的な課題を見つけることができるようになる。等
英語表現Ⅰ 11月18日 公開授業	一人1台タブレット端末を使い、教えた文法事項を使って、英作文しその場で添削を行う。	論理的な思考で課題に取り組むことができるようになる。
体育 11月5日 公開授業	バスケットの授業において、3対2、4対3等のアウトナンバーの攻防が理解できるか。	みんなの前で論理的に発表ができるようになる。

◇7月12日（月）一人1端末を使った、チャレンジ授業（地理B）のようす



ファシリテーターへの道①

松浦市「を」学ぶのではなく、松浦市「で」学ぶことを意識して、授業を計画しています。松浦市はあくまでも教材の一部で、写真は、世界の環境問題から見てきた、私たちが松浦「で」できることについて、協議を行っているところです。

(2)フィールドワークを含む課題研究活動に関する技能習得

1年生がまつナビ・プロジェクトの概要やその進め方を知るために、4月28日には、KJ法等を使った基礎的な課題研究の手法や今後の課題研究活動の進め方を学ぶために、中学生のときに行った「ふるさと学習」の振り返りを行った。5月26日には、3年生によるまつナビ・プロジェクト概要説明会を行った。

□ガイダンス資料（4月16日 生徒配布資料）

プレまつナビ ガイダンス

令和3年4月16日

第1学年

MNPチーム

1. まつナビ・プロジェクトとは

まつナビ・プロジェクトは、平成29年度から本校と松浦市が協働で取り組んできた2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、皆さんの課題解決能力を高めることを目指した取り組みです。令和2年度より文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定校となりました。

2. プレまつナビでは何をするのか

簡単に言うと、2年生で行う「まつナビ」の基礎的な知識や技術を身に付けます。例えば、2年生のフィールドワークのための基礎力をつけるために、バスツアーを行います。

また、課題研究発表（まつナビ）の基礎力をつけるために、バスツアーを含めた学習内容の報告会を10月に行います。

最終的には、2年生で課題研究活動を進めるための「テーマ設定」を自分で考えます。そして、同じような研究を考えている人とグループをつくり活動を開始します。これが最終的なプレまつナビの目標です。

詳しくは、裏の実施計画案を参考にしてください。

3. 心がまえ

まつナビ・プロジェクト（MNP）は、国語や数学といった教科と同じで、今年度より「学校設定科目」となりました。

「松浦をこうしたい」といった前向きな態度で、積極的に活動を行きましょう。

4. 中学校での活動から

プレまつナビを考えるにあたり、中学校や小学校での活動が生きてきます。まずは、中学校の活動等を思い出してください。それをクラスの人たちに伝える活動から、この活動を始めます。

★講話資料（4月16日）



令和3年4月16日
MNP説明 講話

令和3年度「まつナビ・プロジェクト（MNP）」について

1 小中学校での「ふるさと」に関する学習（覚えていること）

時期	内容・取り組んだこと	時期	内容・取り組んだこと
小学校（ ）年生		中学校（ ）年生	

2 松浦について考えてみよう

松浦といえば…	⇒	アピールできているところ	⇒	こうしたらいいのに…
	⇒		⇒	
	⇒		⇒	

1年 組 番 氏名 _____



□ワークショップ ワークシート（4月28日）

4/28（水）プレまつナビ ワークシートI

班

バスツアーに向けて～中学校の地域学習を振り返ろう！～

進行役（ ） 記録係（ ）

その他メンバー（ ）

	歴史	自然	産業 (農業、漁業、工業など 見学した企業でもよい)	文化 (地元の祭り、伝統行事、 言い伝え、方言など)
中学校のときに やった地域学習				
方法 例：インタビュー、調べ学習、 実際に体験した……など				
地域学習を通して わかったこと				
中学校のときの 地域学習の感想				



★4月28日指導書

本時の内容		ワークショップ
本時の目的		ワークショップ「中学校の活動をみんなに知ってもらおう」 ① 各5～6名程度の班を形成 ② 中学校の地域学習の振り返りを行う ③ それを班内で発表する ④ まとめる
準備するもの・・・①教科書 ②筆記用具 ③ワークシートⅠ ④紙ファイル		
時間	学 習 内 容	指導上の注意点
14:00 6時間目 途中から	展開① 班を作成する(机を向かい合わせる) ※記憶に乏しい者は、出身中学別に集まって話し合った後、班を作成してもよい	*1班5～6名程度 (別紙のとおり) 本日やることを担任・副担任で説明する
14:10	展開② ワークシートⅠを記入する	
14:35 7時間目	展開③ 書いたこと(中学校の活動について)を発表する 一人3分程度×6名=18分	
14:53	展開④ 班の代表者が中学校の地域学習について発表する	*代表者は担任・副担任で指名する。なるべく違う中学校の活動を発表させる。
15:10	展開⑤ まとめ	*これから、松浦高校で地域学習をさらに深めていくことを伝える。

(3)松浦市内バスツアー

松浦市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行うために、生徒が企画した「陸、水、街、島」の4つルートに分かれてバスツアーを実施し、見学した内容等をまとめ、発表会を行った。

■バスツアー準備

昨年（令和2年）度の1年生のバスツアー発表の模造紙を見て、どのコースのツアーに参加したいかを考えた。なお、このルートを元に、訪問したい新しい場所等を生徒間で協議した。



これらの活動をもとに、ファシリテーター（教職員）と生徒が協議を進め、バスツアーのルート
を、主に松浦市内陸部（炭鉱等）を中心とした「陸のルート」、松浦市を流れる志佐川の上流まで
行く「水のルート」、平戸市街地と松浦市街地を比較する「街のルート」、鎌倉時代の元寇で知ら
れる鷹島を調査する「島のルート」の4つに分けて、バスツアーを実施することとした。以下がツ
アーの内容と、その4つのルートでの実際の活動の概要である。



□ルート内容（見学先）

ルート名	見 学 先
陸	ニッチツ→城山展望台→世知原炭鉱資料館等→モリヤマファーム
水	大崎海水浴場→魚市場→柚木川内キャンプ場等→笛吹ダム
街	平戸市街地→崎方公園→道の駅生月大橋→松浦市街地（志佐町）
島	鷹島→松浦市立埋蔵文化センター→モンゴル村等→双日ツナファーム

ファシリテーターへの道②

1年生1学期の取組ですので、まずは、これまで身近な存在でありながら、知ら
なかった「ふるさと（松浦市）を知る」ということが最大のめあてです。当然な
がら、市外の生徒もいますが、「これから3年間同じ学び舎で過ごす場所（松浦
市）を知ることは大切だ。」と伝えることが重要だと思います。

◇陸のルート（世知原炭鉱資料館）



◆隣市の炭鉱資料館訪問



◆地元企業訪問

◆バスツアーを終えて（生徒感想）

工場ではハッチカバーやウィンチなど主に船で使用するものを造っていて大きな部品を取り扱っているのは凄いなと思いました。また品質マネジメントシステムと環境に配慮する規格の2つを取得しており、消費者にも安心して注文してもらえるのだなと感じました。私たちもいろんな人の力を借りて生活していることに感謝してこれからも生活していきたいです。

◇水のルート



◆バスツアーを終えて（生徒感想）

大崎海水浴場に比べ砂が硬かったです。ぎぎが浜の由来に行く前に調べてみて、実際に行ってみて話を聞いたら調べた内容とは異なることで驚きました。崖と海の眺めはとっても良かったです。皆さんぜひぎぎが浜に行ってみてください。

大崎海水浴場は五感を使っていろんなことを感じることができました。夕日が綺麗なので、夕方行くのをおすすめします。バスツアーを通して、松浦の良い所や自然の豊かさを知ることが出来たので良かったです。

◇街のルート



◆バスツアーを終えて（生徒感想）

平戸には歴史を感じる場所や広い年代に人気の観光スポットがたくさんあって魅力のある街だと思いました。松浦の観光を発展させるためには、まずは地元の人が行きたくなるような場所づくりが必要だと思いました。商店街に音楽を流すとよいかもしれません。

◇島のルート



◆生徒の感想

松浦市中心部からのお客さんでさえも少ないことから、鷹島の良さを広めることを大人任せにせずに、自ら広めていくという意識が必要だと思いました。

道の駅は住民の利用者数が少ないうえに、コロナ禍により観光客が減少している。また、子供が少ないから、活気がないように思えました。自然豊かで景色がとても綺麗でした。

(4)学習報告会

1年生“プレまつナビ”学習発表会

まつナビ・プロジェクト

第1学年

1 目 的

1年生の「プレ・まつナビ」活動の一環としたバスツアーで、松浦市を「水」「街」「陸」「島」と4つのルートを設定して、生徒たちがその目的等を事前に作成しツアーを行った。この学習発表会は、このバスツアーを中心とした1学期間の取り組みについて発表を行い、2学期に行う「課題研究テーマ」を設定するための一助とすることを目的とする。

2 日 時 令和3年10月20日（水） 6・7校時（13：45～15：15）

3 場 所 本校 体育館（2F） 【40分授業】

4 対 象 松浦高校1年生（85名）・・・発表者（全4班）
松浦高校2年生（94名）・・・サポーター

5 内 容 ひと班あたり、発表を7分、質疑応答6分、移動2分の計15分で実施する。
パワーポイントで発表する。

6 会 次 第

進行 生徒2名

- (1) 13：45 はじめのことば（生徒代表）
- (2) 13：47 校長挨拶
- (3) 13：50 発表の進め方 来校者紹介
- (4) 13：55 陸のルート 発表【発表7分+質疑応答3分+移動2分】
- (5) 14：07 水のルート 発表【発表7分+質疑応答3分+移動2分】
- (6) 14：19 街のルート 発表【発表7分+質疑応答3分+移動2分】
(10分休憩)
- (7) 14：35 島のルート 発表【発表7分+質疑応答3分+移動2分】
- (8) 14：50 講評（中上先生、井手先生）
- (9) 15：05 おわりのことば（生徒代表）

7 そ の 他

- (1) コロナ感染状況によっては、リモート発表や延期等もある。
- (2) 原稿を見ないで発表できるように、練習をしておく。

平戸と松浦
比べてみた！

テーマ設定の理由

- ・二つの市を比べることで、課題や良い点を発見しやすい
- ・平戸のいいところを取り入れるため

最終的に伝えたいこと
自分の地元
自信を持ってほしい！

LOVE



平戸のいいところ！

- ①お土産の美味しさ
- ②街並み



お土産
→カスドース、牛蒡餅




街並み

- ・平戸城を意識
- ・木造×瓦屋根造りの古風な建物



松浦のいいところ！

- ①住みやすい
- ②店が充実



住みやすい

犯罪発生率が低い
↓
長崎県の住みやすさ
ランキング1位



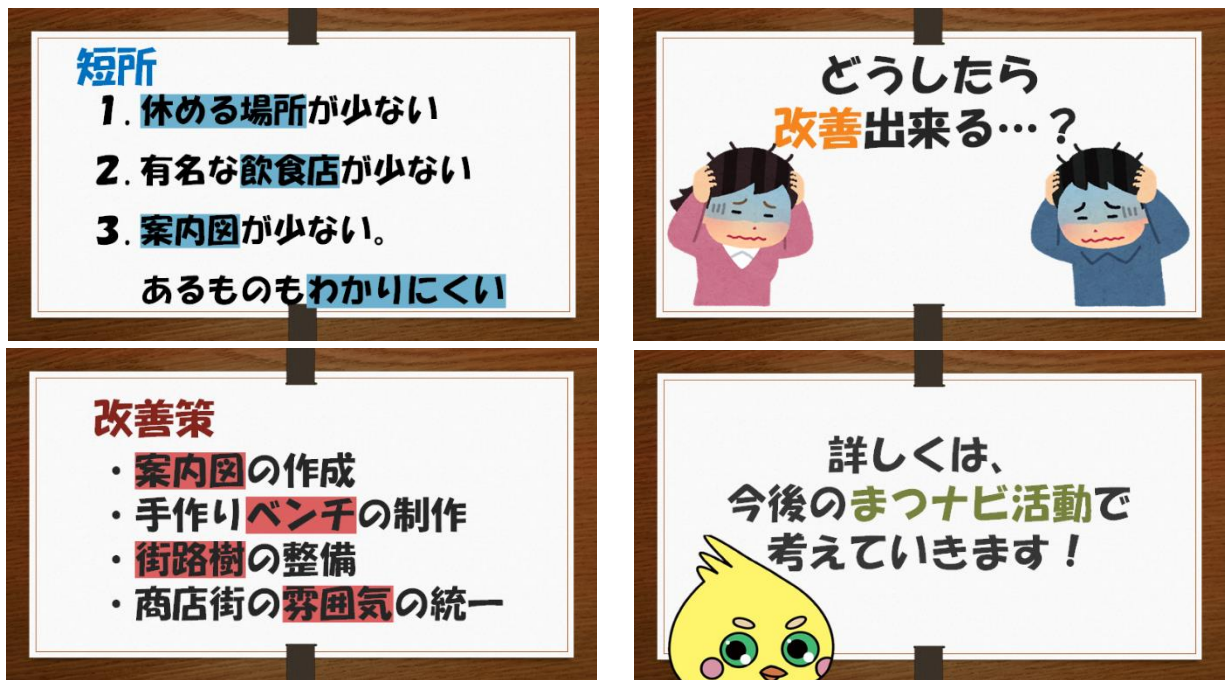
店が充実

SHOP

お店の
バリエーションが
豊富！



比べて分かった！
松浦の短所



(4) 研究テーマ設定

地域課題の解決に向けて、「自分ごと」として課題研究を進めるために、これまでの学習を踏まえ、カリキュラム開発等専門家の助言及びコンソーシアムの支援を受けるなどして、次年度の課題研究テーマの設定及び研究班の編制を進めた。

□ 課題研究テーマ設定までの流れの概要

11月10日（水）自分の将来を考える

- ・自宅ですとめてきた内容をクラスで発表し、協議する

11月17日（水）KPT 法による活動

12月 8日（水）次年度の「まつナビ」の課題研究テーマを考える①

- ・クラス単位ではなく、個別に課題研究テーマを考えてみる

12月15日（水）次年度の「まつナビ」の課題研究テーマを考える②

- ・先週の続き

1月12日（水）「課題研究テーマ設定のための研修会」①

- ・長崎大学井手先生による講義、類似のテーマで仮の研究活動班をつくる

1月26日（水）「課題研究テーマ設定のための研修会」②

- ・「20の思考スキル」についての講義、仮の研究活動班で協議

* 2月9日（水）・2月16日（水）・3月2日（水）は、コロナ禍において、長崎県がまん延防止等重点措置対象県となったために、活動中止。



【プレまつナビ】 11月10日（水）

自分の将来を考える

1年 組 番 氏名

裏面の分野の中で
興味のある言葉を記入

1 将来、どんなことをしたいですか？

「こんな仕事をしたい」や「こういうことに挑戦してみたい」等、ゆっくりと考えながら書いてみよう。
今の段階で、自ら「無理かも?」とか諦める必要はありません。素直な気持ちで書いてみてください。

2 1のことをするために、松高卒業後、どのような道に進めばよいですか？

進学ならば「〇〇系の専門学校に進学して、〇〇の資格を取得する」とか「〇〇大学〇〇学部に進学して研究する」等
就職ならば「〇〇実現のために、〇〇の仕事をする」とか等。

3 バスツアーや2年生の「まつナビ」の中間発表で、自分の進路と少しでも関係のあることや興味のあることを箇条書きで書いてみよう。

例えば、「炭鉱」「エネルギー」とか「水産」「流通」等、キーワードでも可。

-
-
-

4 3で答えた以外で、自分の興味があることを箇条書きで書いてみよう。

例えば、「教員」「事務」とか「美容」「経済」等、キーワードでも可。

-
-
-

5 これまでのまつナビになかった（と思う）、斬新なテーマを箇条書きで書いてみよう。

例えば、「温泉施設の立ち上げ」とか「交通事故対策」等、キーワードでも可。

1. 準備するもの 模造紙、ラッションペン、付箋紙

2. 活動 KPT 法

①Keep 松浦市の良さを出し合う（今後もキープしたいこと）（10分）

②Problem 松浦市の課題を出し合う（今の弱点）（10分）

③Try 挑戦してみたいこと（松浦市を活性化させるためには）（25分）

★昨年、KPT 法ではなく、別の手法で各クラス（班）から出された Try！一覧

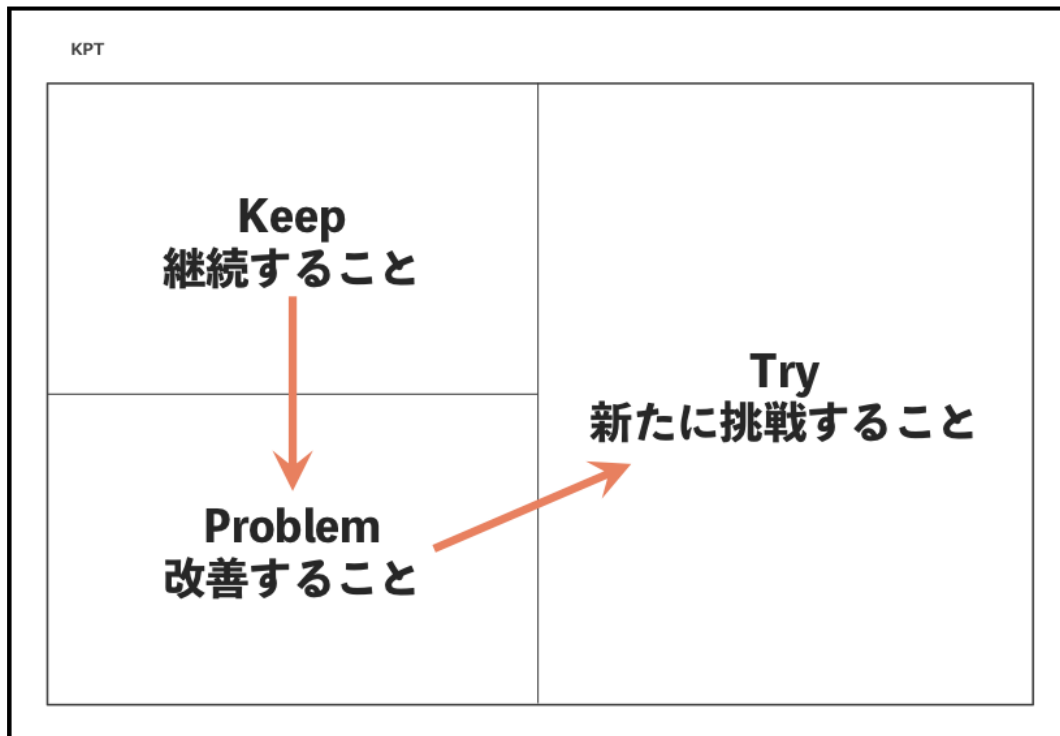
- ・教育や子育てから考える地域活性化
- ・農業や漁業の振興
- ・松浦だからできることのアピール
- ・松浦にこんなことあったらいいな
- ・WEBサイトの立ち上げ、SNSでの発信
- ・国際交流
- ・病院・医療
- ・幼児教育
- ・地域活性化（お菓子屋、ファッションブランド）
- ・企業誘致
- ・地域活性化（スポーツ）
- ・地域活性化（環境、安心安全）
- ・松浦の観光業を盛り上げる
- ・幅広い年代の方との交流する
- ・トラフグを有名にする
- ・松浦のトラフグをもっと知ってもらう
- ・子どもが住みやすい町づくりをしよう

★今年はKPT 法を使って、たくさん Try を出してみよう。

★あなたの将来の進路を踏まえた立場（進学、就職等）で Try したいことを考えてみてください。

例えば、教育学部志望で、「教育」について、例えば美容関係であれば、松浦市を「美」にするには？

サービス業に就職希望であれば、どのようなサービスを提供していくか？



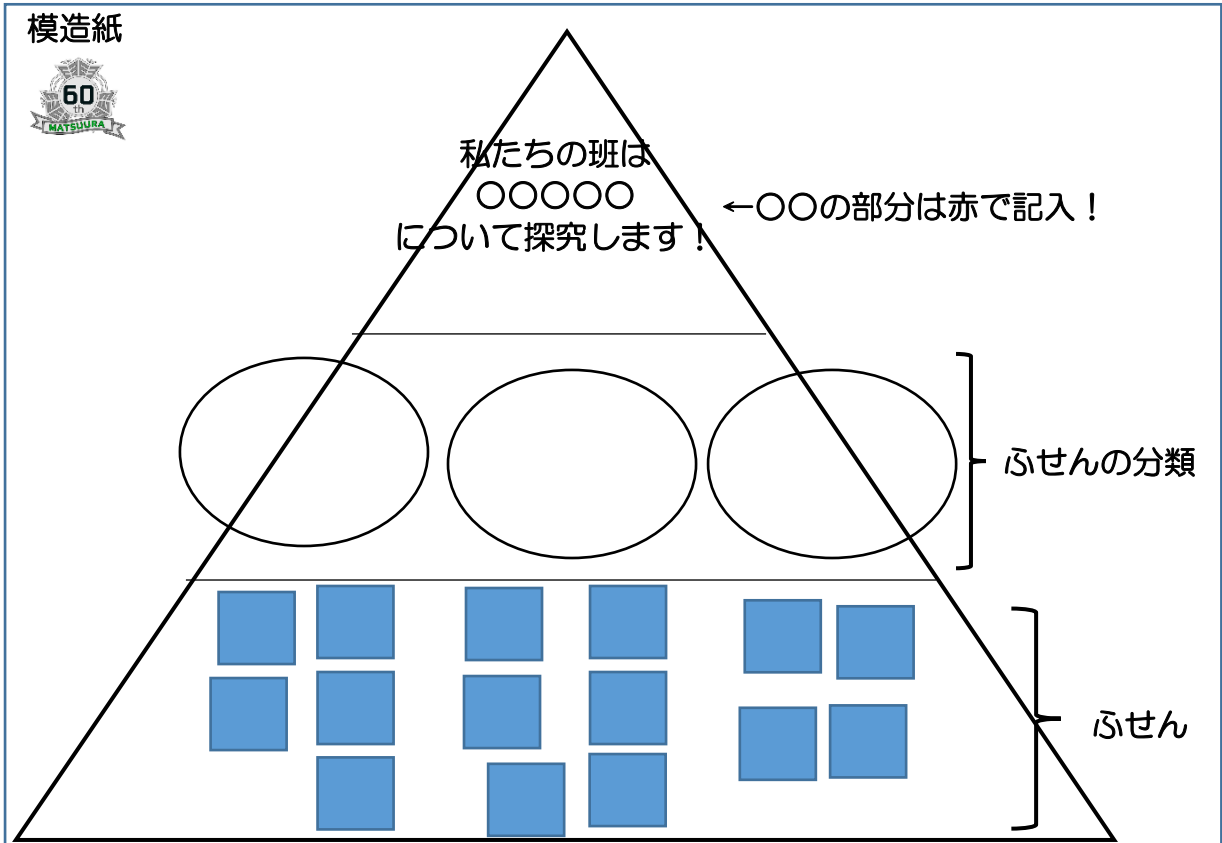
□課題研究テーマ設定3 三角チャート

この時間にやること

- ①模造紙に大きく三角形を書き、横線を引いて三段に分ける。
- ②一番下の段にふせんを3つに分けて貼る。
- ③真ん中の段に、ふせんをどう分類したかを書く。
- ④一番上の段に「私たちの班は〇〇〇〇〇〇について探究します!」と書く。
↑下の段に貼ったふせんとその分類に合った内容にすること。

準備物

筆記用具（ペンは自分が持っているものを使用してもいいです）



□課題研究テーマ設定4「課題研究テーマ設定のための研修会」

進路への結びつき（キャリア教育）も考慮しながら、生徒の主体性を考慮し、「自分ごと」の課題研究テーマ設定を導くための最終段階として、カリキュラム開発等専門家、長崎大学井手弘人先生による研修会を実施した。



◇長崎大学井手先生による講義・ワークショップ



2-4 成果と課題

令和3年度の課題研究活動による、1年生の「プレまつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ① バスツアー計画等を行うことによって、地域ならではの課題についての基礎的な知識を得ることができた。
- ② KPT 法や課題研究テーマ設定研修会等を行うことによって、課題解決学習を進めるための基本的な技能を習得することができた。
- ③ 育成を目指す資質・能力を踏まえた、一人1端末を活用した授業の公開及び振り返りが実施できた。

(2) 課題

- ① キャリア形成につながる課題研究テーマ設定を計画的に進める必要がある。
 - ・ 地域の課題解決に向けて取り組もうとする意欲の高まりが十分でなかったとの課題を解決するために、生徒がキャリア・プランニングを念頭において、より主体的に課題研究テーマを設定することができる取組を、今後、行っていく。
- ② 「まつナビ・プロジェクト (MNP)」で育成を目指す資質・能力を踏まえた各教科における授業実践の一層の充実を図る必要がある。
 - ・ 教科や総合的な探究の時間とMNPの横のつながりを強化するために、職員研修を計画的に実施すると共に、チャレンジ授業や教員どうしが参観する公開授業となるように改善を図る。

ファシリテーターへの道③

1年生の目標は、「課題研究テーマ設定」です。このテーマをいかに「自分ごと」として考え、その解決に向けて研究を進めるかがポイントです。途中でテーマを変えたり、違う方向へいったりと、試行錯誤の時間が続きますが、ここは慌てずに生徒に主体的に設定させる時間をとってあげるように心がけています。

また、教科間の「横」のつながりを強化するために、今年度はたくさんの職員研修とICT関連の勉強会を開催しました。2月にはコロナ禍において、分散登校が行われ、毎日クラスの生徒が半分だけ登校しているときも、教職員が「歩みを止めてはならない」といった強い気持ちから、自宅学習中の生徒にも、登校生徒と同じ授業をオンラインで受けさせる試みなどが積極的に行われました。いつまでも「コロナの責任」にするのではなく、「with コロナ」を合言葉に過ごした1年でした。

3. まつナビ(第2学年)

3-1 研究開発のねらい

設定したテーマに基づき、研究構想を発表し、コンソーシアムの協力を得るなどして、フィールドワークを含む課題研究を計画的に進め、課題研究発表会において課題の解決策等について提言を行うことで、地域を大切にする姿勢や課題解決能力の育成を図る。

3-2 令和3年度の実践活動

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年	(1) 研究構想	1回	2回	1回									
	(2) フィールドワーク			1回	1回	1回		1回	1回	1回			
	(3) 中間発表・振り返り						2回	2回					
	(4) 校内発表・振り返り								3回	2回	2回		

3-3 実践報告

第2学年では地域課題解決を目指して課題研究活動「まつナビ」を行った。第1学年で設定した課題研究テーマについて、構想発表を行い、フィールドワークや地域との協働活動に基づく調査・研究・実践を進め、中間発表を行った。また、コンソーシアム等による評価を受けて、テーマ再設定や発表内容の修正後、校内発表を行った。さらに代表の5つの班は、松浦市民文化会館において、松浦市長及び市議会議員等への提言を行った。

(1)研究構想

地域課題の解決に向けて、「自分ごと」として研究活動を進めるために、これまでの学習を参考として、これから進めていく課題研究活動の構想を発表した。

◇基礎計画（構想発表会準備）





基礎計画ワークシート

() 組 () 番 氏名 ()

本時の 目標	1 「SDGs」について正しく理解する。 2 地域課題テーマに沿って、自分たちが何をするか、決定する。
-----------	--

班	リーダー：	サブリーダー：
ファシリテーター：	班員：	
地域課題テーマ：		
地域課題を解決するために、自分たち にできそうなこと、 取り組むとワクワクするよ うなことを、思いつくま まに挙げてみよう。	自分が思いついたこと	
	班の中で出た意見	
タイトル決定		
SDGsの目標 ターゲットでタ イトルと結びつ きそうなものを 挙げてみよう。		
松浦市の方に聞いて みたいことを挙 げてみよう（質 問・疑問等）		



本時の内容		基礎計画策定
本時の目的		基礎計画の策定 a.「基礎計画ワークシート」記入 b.教科書を読む（p72～89）&春休みの課題を見直す c.「自分が思いついたこと」を発表（A3&付箋紙） d.タイトルを決定する e.「SDGs」との関わりと意味づけを考える f.松浦市の方に聞いてみたいことをまとめる
準備するもの・・・①付箋紙 ②A3用紙 ③筆記用具 ④教科書 ⑤春休みの課題		
時間	学 習 内 容	指導上の注意点
14：35 6時間目	展開① 各班に割り当てられた教室で「基礎計画ワークシート」記入（教科書p72～89を参考に） 展開② 春休みの課題の再検討	＊個人で行う 時間が余った人は、春休みの宿題をもう一度見直す
15：25 7時間目	展開③ 地域課題テーマについて確認する 「自分が思いついたこと」について、発表する（A3用紙に付箋紙で）	＊リーダーが司会。サブリーダーが記録。 「自分が思いついたこと」で同じような内容をマーカーで囲み、研究活動をどのように進めるかを考える。
15：40	展開③ タイトルを決定する 複数の意見や研究の方向性に相違が出た場合は、1つの班の中に複数の研究チームを作ってもよい。（ただし、一人班での活動は禁止）	＊方向性が違えば（例えば、農業と漁業のような）、班に複数の研究チームがあってもよい。
15：50	展開④ SDGsの目標やターゲットと結びつきそうなものをあげる	ただし、諸発表は全て班単位で行う。
16：10	展開⑤ 松浦市の方に聞いてみたいことをまとめる	＊来週は実施できないので、先行して発表会の準備をしておいてもよい。（そのためにここで配布）
16：20	展開⑥「次時に向けて」を確認する。 次時は、課題研究構想発表会準備 ・発表会は概要A4用紙1枚で発表する（最後に担当のファシリテーターから配布）	



本時の内容		基礎計画策定
本時の目的		課題研究構想発表会準備 a. 課題研究構想破票会概要シート作成（提出用） b. 発表原稿作成 c. 発表パワーポイント作成
準備するもの・・・①筆記用具 ②基礎計画ワークシート（個人用） ③課題研究構想破票会概要シート作成（提出用） ④教科書		
時間	学 習 内 容	指導上の注意点
13:45	各教室で本時にやることを確認する ① 課題研究構想発表会概要シート作成（提出用） ② 発表原稿作成 ③ 発表パワーポイント作成（Microsoft teams）	＊前回の指導書では、 <u>USBに保存としていました</u> が、Microsoft teams 内で作業・保存を行います。 （USBは使用しません）
13:55	役割分担 各係に分かれて移動（使用PCは各班3台） ① パソコン室では「密」にならないこと ② パソコンは1つの班で何台も所有しないこと。 ③ 決められたパソコンを使用すること 以下、終了時刻まで班別の活動を行う 14:25～14:35 まで休み時間	
15:05	パソコン室等から、各教室へ戻る 各係の成果や課題を班員へ報告 ↓ 次回は発表前最後の活動日となるので、パワーポイント資料を仕上げることを目標にする。	＊本日の回収物 課題研究構想発表会概要シート（提出用） ↓ 5月19日印刷して参加者に配布します。 （パワーポイント資料は印刷しません）

『まつナビ』のブース形式説明会における松浦市役所各課より教えて頂きたいこと

※【】は説明担当課を想定

①人口動態や就業別人口の割合等【説明担当課：政策企画課】	
6・7時間目（14時35分～16時25分）	
《2班》松浦市の人口の増減の状況	《3班》松浦市の良いところ、悪いところ
《2班》人口増加のために行っていること	《3班》松浦市でぜひ改善したいこと
《2班》市役所の人考える「松浦の魅力」	《3班》今の松浦市を率直にどう思うか
《1班》大規模店舗を建てるときの基準・松浦市にそのような場所は。	《1班》地域活性化のための無人島の利用について
②松浦市の高齢者支援【説明担当課：長寿介護課】	
6時間目（14時35分～15時25分）	
《9班》松浦市の高齢者の現状	
③松浦市の子育て支援（子どもと保護者）【説明担当課：子育て・こども課】	
6時間目（14時35分～15時25分）	7時間目（15時35分～16時25分）
《6班》松浦市の子育て支援の現状・問題点	《8班》松浦市の子どもを対象とした予算
《6班》コロナ禍での子ども対象のイベント開催状況（R2）	《8班》今後子育て支援にほしい制度
	《8班》保育士さんにどんなおもちゃが欲しいか。
④松浦市のスポーツ交流とイベント開催について【説明担当課：生涯学習課】	
6・7時間目（14時35分～16時25分）	
《6班》コロナ禍での子ども対象のイベント開催状況（令和2年度）	
《7班》スポーツ交流を行っているか	
《10班》松浦市とマッカイ市との交流について（これまでとこれから）	
⑤健康（医療）について【説明担当課：健康ほけん課】	
6時間目（14時35分～15時25分）	
《7班》松浦市の病院施設の現状（良いところ・悪いところ）	
《7班》松浦市で市民に健康調査などを行っているか	
⑥漁業と農業の振興について【説明担当課：水産課・農林課】	
6時間目（14時35分～15時25分）	7時間目（15時35分～16時25分）
《5班》松浦市ではどのような野菜・魚がとれるのか	《4班》二酸化炭素削減のため森林を増やす良い場所とは
《5班》収穫・漁獲等の方法	
⑦松浦市の観光について【説明担当課：地域経済活性化課】	
6時間目（14時35分～15時25分）	
《1班》市外からの松浦市訪問数（年間）	
《6班》コロナ禍での子ども対象のイベント開催状況（令和2年度）	
⑧松浦市の環境対策について【説明担当課：福祉事務所・市民生活課】	
6時間目（14時35分～15時25分）	7時間目（15時35分～16時25分）
《4班》松浦市が取り組むバリアフリーの実例	《4班》松浦市の二酸化炭素排出削減等の対策
《4班》松浦市の生活環境で不自由なところ	《4班》二酸化炭素の測定方法や観測地点
《4班》（聴覚障害者向けの）音が鳴る信号機の設置予定	



(6) 班 ブース形式説明会ワークシート

6 班	(1) 組 (9) 番	氏名:
(7) 時間目	教室名 2年3組	松浦市(生涯学習)課・福祉事務所
あなたの班のテーマ: 松浦と考えるみらい		
説明内容 (全てメモをとるつもりで)	<p>R2 ときはほとんどがコロナで中止</p> <p>マカい・国内での交流 (人数制限あり(去年だけ) ちよことしてお店屋さんごっこ) 小学生のみ 「English Day Camp」 ALT先生との交流</p> <p>松浦と北海道 コロナで行き来がXなので 食材を交換して交流</p> <p>保護者が最近</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真 → 市報 [フライバシー] 安全小生 [子どもは特に気を付ける] ↳ 幼児・小学生 <p>保険がどこまでかかるか (保健所)</p> <p>し市で行う場合は市からお金が</p> <p>施設のガイドラインによる人数は決まっている</p> <p>開催は難しいと思うけど不可能ではない</p>	
質問等	あなた	<p>職員等</p> <p>Q 小学生低学年のイベント開催は可能</p> <p>A 責任者の方との交渉、前準備が ↳ 小学生でも中学生でも交渉 必要</p> <p>・説明会を何度も繰り返す行う</p>
感想	<p>この時間の感想</p> <p>○ コロナなどで思い通りに物事が進まないのでも1つの案だけではない 何回も準備において必ず成功させたいなと思えた!!!!</p>	

ファシリテーターへの道④

1年生の3学期に設定したテーマですが、年度が変わり春休みの間に、活動内容を忘れていることがあります。今年度、本校では、Microsoft teams を使い、生徒どうしが休業期間中も協議できる環境を整えていましたので、「忘れていた」という内容はそれほどなく、スムーズに2年生の活動に移行できました。さらに研究構想を深めるために、松浦市役所各課の皆様をお願いして、生徒が疑問に思っていることや、研究の手法等を学ぶために、興味のあるブースに分かれて研修会を行っていただきました。

□構想研究発表会

“まつナビ・プロジェクト” 課題研究構想発表会 実施要項

- 1 目 的
 - ①地域課題解決に向けての研究について、研究構想を発表することで、生徒自ら研究の対象・目的・方法等について確認する機会とする。
 - ②課題研究活動のあり方など、今後の研究について専門家からアドバイスを受けることで研究の方向性を確かめる。
 - ③全体の前で発表することで、本校の教育活動において、育成を図る資質能力(コミュニケーション力(傾聴、対話、発信)、課題発見力・テーマ設定力、論理的思考力)を身に付けさせる一助とする。

- 2 日 時 令和3年5月19日(水) 6・7校時(14:35~16:25)
7校時終了後掃除・SHR

- 3 場 所 本校 体育館(2F)

- 4 発 表 者 松浦高校2年生(94名)・・・10班

- 5 内 容 ひと班あたり、発表を5分で実施する。
パワーポイントは使わず、書画カメラで資料を投影して発表する。
各班、A4・1枚の発表概要を作成し、参加者に配布する。

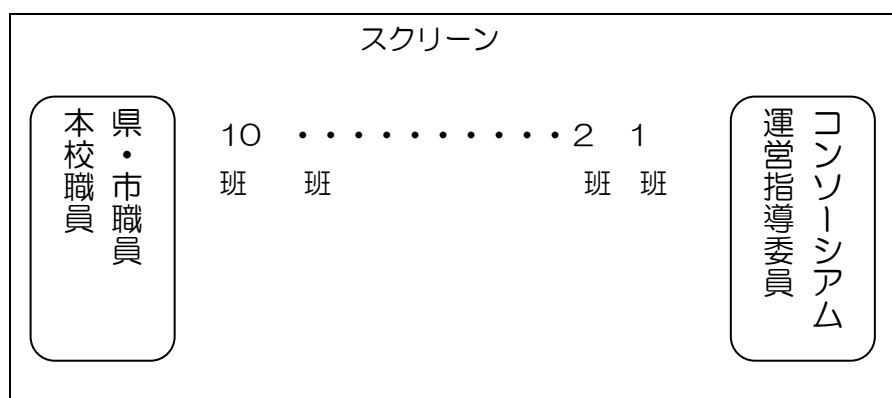
- 6 準備日程 4/21(水)⑥⑦ 基礎計画
4/28(水)⑥⑦ 発表準備&松浦市によるブース形式説明会

- 7 参加予定 地域協働学習実施支援員 1名
カリキュラム開発等専門家 1名
県教育委員会 1名 計3名(予定)

- 8 会次第
進行 生徒2名()
(1) はじめのことば(生徒代表)
(2) 校長挨拶
(3) 前半発表(1番目~5番目)※発表と発表の間は2分程度空けて、移動や感想記入をする。
10分程度休憩(時間調節のため、変更あり)
(4) 後半発表(6番目~10番目)※前半同様に発表と発表の間は2分程度空ける。
(5) 講評(高校教育課係長 嶋藤 慶太様)

(6) おわりのことば(生徒代表)

9 会場図



10 準備物

プロジェクター、書画カメラ、ワイヤレスマイク(2本)、机(機材設置のための)、
動画撮影用カメラおよび三脚、机・椅子(来校者用)、

11 その他

①発表の内容について

発表は、基礎計画シートに沿って、以下の点について説明する。

A 研究テーマおよびタイトル、その理由・根拠

B SDGsの目標

C 到達目標および達成方法(フィールドワーク計画を含む)

②発表の方法について

・一班5分程度で発表を行う。なお、発表は必ず全員で行うこと。

(1分の目安は400字程度。なるべく「下を見ないで」発表すること。)

③発表概要について

4/30(金)までに提出すること。手書き。

④パワーポイント資料について

5/14(金)までにMicrosoft Teamsに保存すること。



★評価シート

MNP課題研究構想発表会 評価シート				
組	評価者氏名			
発表班				
テーマ	地域を盛り上げる方法			
メモ（話を聞きながらポイント書き込もう！）				
評価項目	とても良い	普通	あまり良くない	良くない
発表者の姿勢・態度はよいか	4	3	2	1
資料は見やすいか	4	3	2	1
内容はわかりやすいか	4	3	2	1
活動計画は適切か	4	3	2	1
感想やアドバイス（必ず書いてあげよう！）				

MNP課題研究構想発表会 評価シート				
組	評価者氏名			
発表班				
テーマ	国際交流と農業の発展			
メモ（話を聞きながらポイント書き込もう！）				
評価項目	とても良い	普通	あまり良くない	良くない
発表者の姿勢・態度はよいか	4	3	2	1
資料は見やすいか	4	3	2	1
内容はわかりやすいか	4	3	2	1
活動計画は適切か	4	3	2	1
感想やアドバイス（必ず書いてあげよう！）				

メッセージやメモに使用してください。

◆課題研究構想発表会概要シート

(6) 班 課題研究構想発表会概要シート

6 班	リーダー: 吉原葉月	サブリーダー:
部署 子育てこども 課	班員: 井元、岡本、土本、平田、宮崎、吉岡、中原、村田	
地域課題テーマ: 松浦と考える「みらい」		
タイトル	どきどきわくわく「みらいごっこ」	
取り組みの理由・根拠	私たちが考える住みやすい町とは子どもが「のびのび」と	
	安心して暮らせる町だと思おう。そのために、私たち子ども	
	から大人まで幅広い世代が、自分ごととして考えることが	
	必要だと思おう。	
SDGsの目標・ターゲット	4-2 松浦の子育て支援	
	4-A アンケート、交流会、イベント	
実現するために到達すべき目標 (到達目標)		到達目標を実現するための具体策 (達成方法)
子どもが主役になれる イベントの開催		小学生、中学生、子どもとあつ親を対象にしたアンケート。 内容 「大人」・理想の子育て環境 ・どんな大人になってほしいか 「子ども」・どんな大人になりたいか ・松浦だからできる自分たちでできることは何か インタビュー ハイムートにきた親子の親が対象 アンケートの「大人」と聞くことは同じ 市役所、これまでの子ども対象のイベントの場所と 入場制限、子育て支援の内容、現状。

ファシリテーターへの道⑤

本校で初めて取り組んだ「課題研究構想発表会」ですが、年度当初にこの発表会を行うことで、その後の活動に対する生徒のモチベーションがあがりました。また、生徒は、今回の発表会で何が足りないのか、どのような情報が必要なのか等を知るきっかけとなり、7月のフィールドワークに向けての準備をはじめました。長崎県では、5月末から6月初旬にかけて、高校総体に向けて「全力投球」となります。しかし、生徒にはこの学びを止めさせないために、生徒たちが振り返り、ファシリテーターと協議をする時間を十分にとりました。



◆松浦未来会議

これまでの生徒学びと、教員ファシリテーターの技術の向上をはかるために、次のページのとおり、松浦未来会議に参加した。松浦市民や大学生と将来の松浦を一緒に考え、まとめとして、自分のことばで語ることができた。

◇松浦市長と記念撮影



◇市民と活動をする本校生徒



ファシリテーターへの道⑥

よく、「市民の方との交流」や「そのきっかけづくり」について、いろいろな学校から御質問をいただきます。このような企画は、いろいろな自治体で取り組まれていますので、市や町、村のホームページなどで確認して、参加してみるとよいと思います。今回、この会議に参加し、そこで知り合った方が、新しく「市民ファシリテーター」として、生徒の課題研究活動を支援していただく運命の出会いがありました。こういった出会いも、参加しなければなかったと思います。こういったことが、ファシリテーターとして、とても嬉しいことです。松浦市長様をはじめ、松浦市政策企画課の皆様、今年もお誘いいただき、ありがとうございました。

令和3年度

各地域版

まちの未来をつくる

ワークショップ開催!

令和元年度に策定した総合計画に基づいて、
松浦市では市民と市民、市民と行政の「対話のまちづくり」を進めています。
昨年は地域版未来会議、市内小中学校や松浦高校での「模擬未来会議体験」、
そして市民ファシリテーター(対話の促進役)養成などを行ってきました。
今年度は市民ファシリテーターの皆さんと一緒に地域版未来会議を開催します。
ぜひ、ご参加ください。

参加
無料

託児
無料
1週間前
まで
要申込

鷹島 6月28日(月) 時間 18時30分～21時
場所 鷹島開発総合センター 集会室

福島 6月29日(火) 時間 18時30分～21時
場所 福島公民館 第1・2・3会議室

調川 7月5日(月) 時間 18時30分～21時
場所 調川公民館 講堂1・2・3

今福 7月6日(火) 時間 18時30分～21時
場所 東部交流センター 大会議室1・2・3

星鹿 7月8日(木) 時間 18時30分～21時
場所 星鹿公民館 ホール

上志佐 7月9日(金) 時間 18時30分～21時
場所 上志佐公民館 集会室

志佐 7月13日(火) 時間 18時30分～21時
場所 松浦市役所 市民ホール

御厨 7月14日(水) 時間 18時30分～21時
場所 御厨公民館 講堂

ここで話し合われた内容を参考にしながら市の政策や計画づくりを行なっていきます

問合せ先
松浦市政策企画課 企画統計係

電話 0956-72-1111(内線315)
E-mail seisaku@city.matsuura.lg.jp

松浦市は総合計画に位置付けた基本構想を実現していくために、誰もが参加しやすい対話によるまちづくりを進めています。

(2)フィールドワーク

今後の研究の充実に向けた情報の収集とコミュニケーション力育成等のために、生徒が事業所等の見学や体験、インタビューなどを計画し、フィールドワークを行った。実施後、振り返りを行い、課題研究にその内容を反映させた。



★令和3年度フィールドワーク計画

フィールドワーク（FW）計画（チームレポート）

班	7/7（水）	課題研究テーマ		
リーダー	組 番	サブリーダー	組 番	
SDGs目標				
メモ FW計画	協議の内容・			
チェックリスト	自分たちのフィールドワーク計画について確認しましょう			
	✓	項 目		
		行く場所は、テーマの実現につながる場所ですか。		
		行く場所は、体験だけでなく、提言につながりますか。		
		行く場所の開館日・開館時間・アクセスは確認していますか。		
		スケジュールは分単位で細かく計画されていますか。		
		交通手段の時間・費用・定員を確認していますか。		
		アポはとれていますか。		
		役割分担はできていますか。		
	◎アポをとりたい事業所等（訪問したい事業所などを書く）			
次の時間までにや	やること	担当者	目的等	期限



令和3年7月7日	フィールドワーク計画	
<p>本時の目的 「計画の整理」</p>	<p>①<最初から各部屋で>ファシリテーターから a. 前時の確認、b.今日の手順確認、c.役割分担</p> <p>②司会による進行 <フィールドワーク計画を作成するのが目標です。> a 先週の作業の確認 b.終日FWの活用について整理する c.班活動 d.次時までに行うこと</p>	
本時の進め方		
<p>準備するもの ①模造紙 ②付箋紙 ③ラッシュオンペン ④PC ⑤タブレット ト (今日は班長、副班長が3階階段付近に取りにきます) <各部屋で>15:35~班別に座ります。</p> <p>展開① 本時にやることを確認します。15:40~ a.前時の確認、b.今日の手順確認</p> <p>展開② 7月29日の終日FWについて協議します。</p> <p>展開③ 情報共有 数人でバラバラに活動している班は、情報共有して、活動の整理を行います。</p> <p>展開④ ここからは班独自の活動です。(校外に出る班もあります) 今日行ったことをチームシートにまとめてください。</p> <p>展開⑤ 次の時間までに行うこと、行う人等を整理します。 16:20~ ・ルートの整理(MRやバスの時間の確認等) ・誰がどこへ行き、何をするのか</p>	<p>準備係・進行・記録は毎回違う人が行います。 ファシリテーターは本時やることを確認します。(上の「本時の目的」を見て話します)</p> <p>※ここから司会が進行 付箋紙やこれまでのチームシートなどを参考にして、まだできていないことなどを確認します。</p> <p>*次回が最後のFW 前最後の活動になることを確認します。</p>	
次時に向けて		
<p>①役割分担の確認</p> <p>②ワークシートは、Microsoft teams 「まつナビ・プロジェクト」→「まつナビ」(ファイル)の中にも入れています。(いつでもタブレット等で作業できます)</p>		

*今週用のワークシートは担当教諭に提出してください。

◇市民ファシリテーターの活動支援



◇松浦市政策企画課の活動支援



◇自分自身の思いを語る



◇模造紙を使った活動



◇1人1PC 配布直後の活動



◇新しい課題研究協議の形



フィールドワーク活動例

◇道の駅で聞き取り調査①



◇道の駅での聞き取り調査②



◇子育て広場 (URACCO)



◇地元企業とクラウドファンディング計画



◇佐世保市役所訪問



◇水族館での聞き取り調査





令和3年7月30日	フィールドワーク振り返り	
<p>本時の目的</p>	<p>今日やることを確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個人による振り返り 2. 全体で共有 3. 今後の方向性を検討 	
<p>本時の進め方</p>		
<p>展開① 本時にやることを確認します。(5分)</p> <p>展開② 本日使用する教材の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 模造紙 ラッションペン 付箋紙 2. 個人レポート 3. タブレット <p>展開③ フィールドワークの反省を行うために、まずは、個人レポートにそれぞれが記入します(20分)</p> <p>展開④ フィールドワークの成果について整理と分析を行います。</p> <p>模造紙に 「訪問先」「わかったこと」「うまくいかなかたこと」「得られたもの」「整理と分析」「フィールドワーク後の方向性」と書きます。</p> <p>展開⑤ そこにみんなで、付箋紙に「個人レポート」の内容を書き込み、意見等を出し合います。(25分) (休み時間)</p> <p>展開⑥ フィールドワーク後の方向性／活動計画を確認します</p> <p>OSDGsを含めた到達目標は達成できそうか(10</p>	<p>ファシリテーターもしくは、班長で「本時の目的」を確認する</p> <p>なければ、3階 階段前に置いています。</p> <p>筆記用具で(タブレットは使用しない)</p> <p>模造紙を項目別に6分割してするとよいと思います。</p> <p>全員が参加します。 ファシリテーターもお気づきがあれば、御助言ください。</p> <p>目標の確認をします。 到達目標がここで変更になってもかまいません。</p>	

<p>分) →できそうにない場合、どうしたらできそうになるか。 →テーマ・到達目標自体を変更した方がいいのか。 ○地域の課題や問題点が具体的に見えてきましたか。 (10分) →見えない場合には、どうやったら見えるようになるか。 ○提言できそうなことは見えてきましたか。(10分) →見えない場合には、どうやったら見えるようになるか。</p> <p>展開⑦ これまでのフィールドワークの成果から次回2学期に向けた役割分担をします。(15分) 例) もう一度●●にフィールドワークへ行く準備をする 松浦市図書館で調べる 等</p> <p>展開⑧ 必要であれば、フィールドワークでお世話になったところへの礼状を作成します。</p>	<p>新たに課題を設定してもかまいません。</p> <p>ファシリテーターの先生方に御助言いただきたいです。</p> <p>以下の2学期活動計画で、中間発表までのおよその予定を確認します。</p> <p>ファシリテーターの先生方に、便せんと記入例をお渡しします。</p>
<p>次時に向けて</p>	
<p>夏休みに入り時間があくので、次回までにやっておくことなどを具体的に話し合っておきましょう。</p>	

2学期の活動予定(中間発表まで)

9月 8日(水)・・・中間発表計画 枠割分担等

9月15日(水)【2時間】・・・フィールドワーク等可能日

9月22日(水)【2時間】・・・パワーポイント作成 フィールドワーク等可能日

9月29日(水)【2時間】・・・リハーサル

10月13日(水) 中間発表会



★フィールドワーク振り返り（個人レポート）

個人レポート



7/30（金）	年 組 番 氏 名	班
フィールドワーク振り返り		
理解度チェック	<p>学習の結果を自分自身で確認してください。</p> <p>①今日やるべきことが確認できた。</p> <p>②中間発表までの手順が確認できた。</p> <p>③フィールドワーク反省に参加できた。</p> <p>④フィールドワーク成果の整理と分析に参加できた。</p> <p>⑤フィールドワーク後の方向性と活動計画の立案に参加できた。</p> <p>⑥中間発表に向けてやるべきことが確認できた。</p>	<p>①かなり積極的にできた ②できた ③消極的にしかできなかった ④できなかった</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④</p> <p>① ② ③ ④</p>
設問1（振り返り） フィールドワークの準備についての反省や感想を書きなさい。		
設問2（振り返り） フィールドワーク当日の反省や感想を書きなさい。		
設問3（これから）フィールドワークで達成できたこと、わかったことを書きなさい。		
設問4（これから）フィールドワークで実現できなかったこと、やるべきことを書きなさい。		

ファシリテーターへの道⑦

本校は夏休みの一日を利用して、一日かけてフィールドワークを行います。この季節は熱中症に十分気をつけながらの外活動になりますが、併せて台風シーズンであるということも念頭におく必要があります。そこで本校では、「月曜日」にフィールドワークは入れません。なぜなら、台風や大雨の影響でフィールドワークを中止にすると、生徒への連絡を「日曜日」に行わなくてはならないからです。

さて、フィールドワークの準備をはじめているときに、生徒たちの研究活動方法が大きく変わります。本校では、7月上旬に生徒一人1台PCが配布され、タブレットPCにより活動を行うことになりました。フィールドワークの準備の写真を5ページ前に6枚載せていますが、最後の2枚は、「新しい学校生活様式（タブレットPCを使った活動）」となっています。便利になった反面、正確な情報を入手する知識・技能が必要となりました。ファシリテーターとして、生徒の「何でも検索一つ」では「何一つ信ぴょう性がない」ことをしっかり伝えます。

(2)中間発表

課題研究の方向性等について検証するために、研究の進捗状況等について発表し、コンソーシアム関係者等から助言を受けた。生徒は、研究の振り返りを行うとともに、以後の研究の進め方について検討した。



★実施要領

まつナビプロジェクト・2年生“まつナビ”中間発表

1 目 的

- (1)地域課題解決に向けての研究について、進捗状況を発表することで、生徒自らが研究の目的・方法等について確認する機会とする。
- (2)今後の課題研究について専門家からアドバイスを受けることで研究の方向性を確かめる。
- (3)全体の前で発表することで、校内発表（12月）および課題研究発表（1月）に向けてよりよい発表のしかたを身につける。

2 日 時 令和3年10月13日（水） 6・7校時（14：35～16：25）

3 場 所 本校 体育館（2F）

4 対 象 松浦高校2年生（94名）・・・発表者（10班）

松浦高校1年生（85名）・・・参観者

5 内 容 ひと班あたり、発表を5分で実施する。

パワーポイント5枚（アニメーションなし）で発表する。

各班、A4・1枚の発表概要を作成し、参加者に配布する。

6 会次第

進行 生徒2名

(1) 14：35 はじめのことば（生徒代表）

(2) 14：40 校長挨拶

- (3) 14:45 発表の進め方 来校者紹介
- (4) 14:50 前半発表(1番目~5番目)
※発表と発表の間は2分程度空けて、移動や感想記入をする。
- (5) 15:25 10分程度休憩(時間調節のため、変更あり)
- (6) 15:35 後半発表(6番目~10番目)
※前半同様に発表と発表の間は2分程度空ける。
- (7) 16:10 講評
- (8) 16:25 おわりのことば(生徒代表)

7 その他

●発表の内容と方法について

- ①一班5分程度で発表を行う。なお、発表は必ず全員で行う。
- ②パワーポイントを使い発表します。
 - ・ただしアニメーションは不可
 - ・パワーポイント1枚につき文字は5行まで
 - ・図表・絵の利用とデザインは自由

8 各班の発表タイトル

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1班発表「地域活性化」 | 2班発表「松浦をどうやって盛り上げるか」 |
| 3班発表「地域の人々との交流」 | 4班発表「住みやすい町」 |
| 5班発表「農業や漁業の振興」 | 6班発表「子ども」 |
| 7班発表「スポーツ・医療」 | 8班発表「子どもに優しい町づくり」 |
| 9班発表「地域を盛り上げる方法」 | 10班発表「国際交流」 |

9 採点基準

(1) ルーブリック評価規準を使って

- ・現状分析がしっかりできているか(5点満点)
- ・フィールドワークの効果が見られるか(5点満点)
- ・今後の展望(提案・実践)が明確か(5点満点)
- ・パワーポイントの見やすさなど、内容・発表に工夫が見られるか(5点満点)
- ・発表姿勢(原稿なしの発表)や時間は適切か(5点満点)

【評価サポーター】100点満点で評価

→ 本発表(200点満点)とのトータル300点で決めます。

パワポのスライドをつくることが目的化しているグループが多くあり「プレゼン作成=パワポ資料をつくる」と勘違いしているの?と思う場面がたくさんありました。そこで中間発表は、語り重視の発表会にします。



★ルーブリック評価規準

評価規準	①現状分析がしっかりできているか	②フィードバックの効果がえられるか	③今後の展望（提言・実践）が明確か	④パワーポイントに見やすさ等内容・発表に工夫が見られるか	⑤発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	備考
評価の観点	思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動1：省察・評価）	学びに向かう力・人間性等（レジリエンス能力）	思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動2：「計画」部分）	思考力・判断力・表現力等（リーダーシップ・対話力・協調性などの社会的能力）	知識・技能（プレゼンテーション技術）	
段階（規準）						
1	現状を語ることできている。	フィードバックの内容について話せてきている。	これから行おうとしている予定を表明することができている。	パワーポイントのスライドを、規定に沿ってつくることができている。	発表をすることができている。	
2	現状とそこに至るまでのプロセスを断片的に語ることできている。	フィードバックの内容と、その成果について話せてきている。	これから行おうとしている予定を具体的に表明することができている。	文字の大きさや色などを添えて「見やすさ」に工夫を加えることができている。	時間内に発表することができている。	1から4は学校の生徒の実践にあわせて段階を下げようとする必要があるのに対して、高校の現場教師が中心となって案をつくる。5から5部分の「接続」部分を中心に、大学・企業等との調整を義務レベルで協働して開発する。
3	現状と、そこに至るまでのプロセスを、一連のストーリーとして語ることできている。	フィードバックの内容とその成果および課題について話せてきている。	残り期間で現実的に可能な展望（提言・実践）を具体的に表明することができている。	図や表なども使った視覚的な工夫を加えたパワーポイントスライドを作成できている。	時間内に、かつ原稿にあまり目を通さずに発表することができている。	
4	現状と、そこに至るまでのプロセスを語ることできているとともに、その要因がどこにあるのかについて言及・表明することができている。	フィードバック前の仮説に基づいて、その内容・成果・課題について整理し話すことができている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果があると想定できる活動について、具体的に表明することができている。	パワーポイントのスライドに加え、話し方にも工夫を加えて、聴衆を引きつけようと努めることができている。	時間内に、かつ原稿に目を通すことなく聴衆の顔を見ながら発表することができている。	
5	達成目標を前提に、現状までのプロセスを言語化・可視化し、到達している点と追加検証を加える必要がある点とを明確にできている。	フィードバック前に仮説に基づいたデータ検証や、現地で直面した課題に今後向かおうとする姿勢が明確に表明できている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果のある具体的な提言等、および自分たちがおよその周囲が持続可能な形で実践に参画できるようなことをするための方策を表明することができている。	視覚情報としてのパワーポイントと、発表の発言内容との役割を明確にし、聴衆である生徒に対し対話を促しながら相互に考え合う工夫ができてきている。	聴衆の興味・関心を引き出し、自らの活動への参画者を増やすようなインパクトのある、説得力を持った発表を時間内で行うことができている。	大学や社会での学びでの前提として必要とされる能力を基準にして、5部分を設定（高校・大学・企業等との実務者で協働してルーブリックは開発）

ファシリテーターへの道⑧

生徒は、タブレットを全員配布され、日頃の学習活動でも頻繁に使用されるようになりました。しかしながら、中間発表準備段階で、活動後のファシリテーターらによる振り返りから、「発表の内容ではなく、パワーポイント作成に凝っている傾向が見られる。」といった意見がありました。そこで、今回は、パワーポイントのアニメーションはなし、ページ数は5ページ限定とし、「語り重視」の発表会とすることにしました。

◇中間発表



(4)他県高校とのリモート協議

生徒の課題研究のより一層の充実を図るために、課題研究発表会の前に鹿児島県立大島北高等学校とのリモートによる意見交換を行った。また、事前にお互いの情報を交換して、その後の課題研究活動の参考にした。

◇鹿児島県立大島北高等学校とのオンライン協議会



ファシリテーターへの道⑨

毎年校内発表会前に、生徒の活動速度がやや鈍くなる時期があります。いわゆる「スランプ」と言われるものです。これまで、「無我夢中」で取り組んでいた活動から、「活動にはこれだけのコストがかかる」や「実践活動の準備に時間がない」等、いろいろなことが見えはじめます。そこで、生徒がこの壁を乗り越えて、積極的かつ主体的になるように、毎年この時期に県外の高校生とのオンライン協議会を開いています。日頃の活動の悩みを大人に話すのではなく、同じ高校生に伝えることで、お互いが「視野の狭さ」に気づいたり、「悩んでいるのは私だけではない」などといった悩みを共有したりしました。お互いに「頑張ろう」と励まして、今年この会は終了しました。ときに、生徒は地域だけでは物足りなくなることもあります。このように地域の壁を越えた取組もファシリテーターは準備する必要があります。

(5)校内発表

生徒がプレゼンテーション力や表現力などの発信力を身に付けるとともに、研究内容について校内で情報共有するために、課題研究活動の成果、実践についての発表会を校内オンラインにて実施した。



★校内発表準備

1117生徒用手続き

令和3年11月17日	校内発表準備	
<p>本時の目的</p>	<p>今日やることを確認 1. ROAD TO「校内発表」活動計画シート（再計画） 2. <u>教科書の準備</u> 3. 役割分担</p>	
<p>本時の進め方</p>		
<p>展開① 本時にやることを確認します。</p> <p>展開② ROAD TO「校内発表」活動計画シートの内容を確認。計画に不安がある、十分でない場合は、第4選択教室に井手先生、中上先生がいらっしゃるのので、相談に行ってください。</p> <p>展開③ 井手先生とのリモート相談会 井手先生に質問や相談がある場合は、14：45頃からリモートでつながりますので、()教室に集合してください。</p> <p>展開④ 役割分担と作業 次回までの係分担を決めて（毎週計画に基づいた係分担を決める）各係で作業を開始する。 （今日のポイント）</p> <p>1. フィールドワークを行う場合、次の3点に気をつけましょう。 ①ファシリテーターの先生と訪問先のアポイントをとる。 ②交通費を算出する →急な計画では交通費が出せませんので、1週間前に余裕をもって教えてください。 ③無理な活動計画を立てない。</p> <p>2. 実践活動を行う場合、次の2点に気をつけましょう。 ①イベントを行う場合は、最低1カ月以上の余裕をもつ。 ②何かを購入するときに、絶対に「個人負担」はしない。 ③先生がいない場合の校外実践活動はできません。</p>	<p>ファシリテーターもしくは、班長で「本時の目的」を確認する</p> <p>班員は「シート」に記入しながら、校内発表までの計画を確認する。 教科書p122～124を確認する</p> <p>「次週の活動までに何をしておくか」を決める</p> <p>→ここ重要です。</p>	



★リハーサル

「まつナビ・プロジェクト」

0112手引き（教員・生徒配布用）

令和4年1月12日	校内発表 準備	
<p>本時の目的</p>	<p>①各部屋で a. 前時の確認、b. 今日の手順確認、c. 役割分担</p> <p>②司会による進行 ＜19日の校内発表のリハーサルを行うことが目標です。＞ a. 班長による発表番、抽選 b. リハーサル（各教室…2班合同で） c. 修正</p>	
<p>本時の進め方</p>		
<p>展開1、班長は、第2PC室に集合します。14:35～14:45→19日校内発表の発表順抽選会を行います。</p> <p>展開2、発表順を班員に知らせます。</p> <p>展開3、リハーサルの準備を行います。</p> <p>（最初の班）14:50～14:57 （次の班）15:00～15:07</p> <p>2-1教室 1班（最初） 4班（次） 2-2教室 2班（最初） 9班（次） 2-3教室 3班（最初） 7班（次） 第6選択 5班（最初） 10班（次） 第5選択 6班（最初） 8班（次）</p> <p>15:10～ お互いの感想を述べます。 15:15～15:25 各班で修正すべきところを話し合っ、休み時間に入ります。</p> <p>15:35～各班 修正</p>	<p>班にA、Bグループがある場合は、それぞれの代表者が集合する。</p> <p><u>1つの班がアドバイザーとなり、もう一つの班が発表を行います。</u></p> <p>感想シートに記入。</p> <p>生徒の皆さんはほめるよりも、「こうすればもっとよくなるよ」と伝えましょう。</p> <p>ただし、1週間で修正不可能なことは伝えること。例えば、「実際にイベントを行うべきだ」など。</p>	
<p>校内発表に向けて</p>		
<p>1. 校内発表で5位までに入った班は、2月10日の松浦市文化会館での課題研究発表会で発表を行います。（1月26日と2月10日の活動は、発表会準備となります。）</p> <p>2. その他の班は文化会館で「ポスターセッション」を行います。（1月26日と2月10日の活動はポスター作成となります。）各ブースでポスターを使って、課題研究発表を行います。</p>		

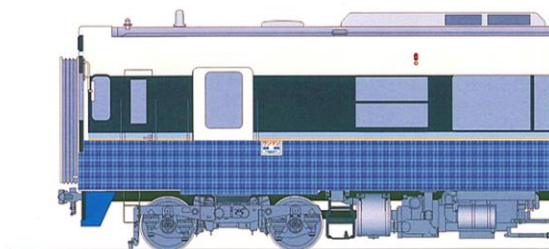
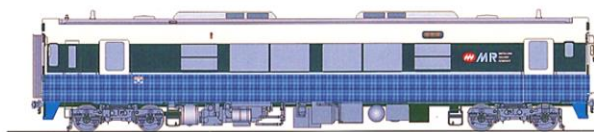
□校内発表準備（実践活動例）

◇オーストラリアマッカイ市の高校生との交流 ◇福島養源小学校との交流



◆松浦鉄道（*松浦タータンチェック）ラッピング図案

*松浦タータンチェック
イギリスを代表する
世界的キルトメーカー
から認定された
本校のスクールカラー
と松浦の空と海をイメ
ージした「世界に一つ
だけ」のチェック柄



まつナビ・プロジェクト（MNP）校内発表会（**オンライン参観**を含む）

- 1 目的 本校で取り組んでいる「まつナビ・プロジェクト」は、地域との協働により、地域を素材にして課題研究に取り組み、本気で松浦の未来を担いたいと考える人材育成を目指している。その中一環として、これまでのMNP活動の研究結果や、班活動を通じて学んだことを、自分の言葉で語ることを目的とする。
- 2 日時 令和4年1月19日（水）13：25～16：25
（各PJ7分間の発表＋2分間の質疑応答＋交代）
- 3 場所 コモンホール
- 4 対象 （1）本校2年生94名・・・10の班に分かれてグループ発表 該当ブロック
以外の班は教室でリモート参観
（2）本校1年生85名・・・教室でリモート参観
（3）審査員・・・コモンホールにて審査を行う（50点×4人）
①県教委指導主事 ②カリキュラム開発等専門家
③地域協働学習実施支援員 ④校長
- 5 会次第
進行（ ）（ ）
[Aブロック]・・・1～4班員は全てコモンホールに集合
13：25～13：35 校長挨拶 県教委挨拶
13：35～13：55 8班（A）（B）「子どもにやさしい町づくり」
13：55～14：05 6班「子ども」
14：05～14：15 10班「国際交流」
14：15～14：25 7班「スポーツ・医療」
[Bブロック]・・・4～8班員は全てコモンホールに集合
14：35～14：55 4班（A）（B）「住みやすい町」
14：55～15：05 2班「松浦をどうやって盛り上げるか」
15：05～15：15 3班「地域の人々との交流」
15：15～15：25 9班「地域を盛り上げる方法」
[Cブロック]・・・7～10班員は全てコモンホールに集合
15：35～15：55 1班（A）（B）「地域活性化」
15：55～16：05 5班「農業や漁業の振興」
16：05～16：15 講評（井手先生、中上先生）
16：15～ 終わりのことば
*審査結果と発表は、1月26日（水）に行います。
- 7 採点基準
（1）10月20日（水）に出したルーブリック評価にて行います。
（2）中間発表（100点）と校内発表（200点）の合計300点で、2月10日（木）の課題研究発表会に進む班を決めます。

◆校内発表スライド例

まつナビ発表 6班
わくわく★どきどき♪ みらいごっこ

はじめに SDGsについて

松浦を住み続けたいと思えるまちにするために、はじめに子どもに目を向けました

4 質の高い教育をみんなに

8 働きがいも経済成長も

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナーシップで目標を達成しよう

【活動目的】

松浦に住む子どもたちが、いつか親になった時に
「松浦で子どもを育てたい」
「やっぱり松浦っていいな」
そう思えるまちにしたい。
松浦を離れた人が戻りたいと思うまちにしたい

子どもが主役のイベントを開こう！

- ・子どもが、わくわく・どきどきできる。
- ・子どもの少ない松浦だからできること。

具体的に何をするの？


↓

【イベントについて】

市内の小学生と協力してイベントをする
イベントでは小学生が出店の当番をする
出店は市内の飲食店などに協力してもらう
イベントでの出費を最小限にするためにバザーをする

子どもたちのがんばっていることを紙に書いて
それを使って紙飛行機大会をする

【イベントについて②】



**開催2022年2月23日
松浦文化会館ホール**


先日、班で簡単にイベントの予行練習をしました。
動画にしてみましたのでご覧ください！


わくわく★どきどき♪

11月30日 福島養源小に行ってきた

- ★ イベントの説明
- ★ 一緒につくる福島町のパンフレット作成のためのアンケート
(福島のいいところ、好きなところなど)

アンケートの様子



**イベントについて
小学生の反応**

小学生のリアルな思いを知ることができた

思い：楽しみ
理由：やることがないことがあるから。

思い：楽しみ
理由：福島市ではイベントなどの行事が少ないので楽しましてほしいです。

思い：楽しみやかと混ざうする
理由：みんながやるの楽しやかと、混ざうする。

よくしまようけんしょう
福島養源小
〇〇ランキング
福島養源小の5・6年生にアンケートを取りました!!

楽しい行事TOP3
1位 運動会
2位 学習発表会
3位 校庭ウォークラリー

美味しい給食TOP3
1位 東エビ
1位 アジフライ
1位 焼肉のしそステーキ

私たちのいい所TOP3
1位 明るい
2位 挨拶がいい
3位 みんなが優しい

期待が詰まった部活動TOP3
1位 サッカー
2位 ドッチボール
3位 なわとび

小学生の目を引くように、イラスト多め!!

わくわくお楽しみ会
主催：松浦高校サテライト部
色々なお店が来ます!!

漢字は簡単なものだけ

午後から、かひひこつぎ大会もするよ!
1番とばせる人はだれかな?

2022年2月23日(水)
10時～16時くらい
松浦市文化会館ふれあいホール

ありがとうございました。

◆校内発表





★ループリック評価規準

育成を図る 資質能力	テーマ設定力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション力（傾聴・対話・発信）	備考
評価規準	①現状分析がしっかりできているか	②フィールドワークの効果が認められるか	③今後の展望（提言・実践）が明確か	④パワーポイントに見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	
評価の観点	思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動1：省察・評価）	学びに向かう力・人間性等（シリエンス能力）	論理的思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動3：「遂行・省察」部分）	知識・技能（プレゼンテーション技術）・思考力・判断力・表現力等（リーダーシップ・対話力・協調性などの社会的能力）	
段階（規準）					
1	現状を語る事ができている。	フィールドワークの内容について話せる事ができている。	2年生で本格的に行う課題研究活動のテーマが設定できている。	パワーポイントのスライドを、規定に沿ってつくり、発表することができている。	
2	現状とそこに至るまでのプロセスを断片的に語る事ができている。	フィールドワークの内容とその成果について話せる事ができている。	自分の将来を見据えたキャリアプランを考えたことも含めつつ、2年生で本格的に行う課題研究活動のテーマが設定できている。	文字の大きさや色などを変えて「見やすさ」に工夫を加える事ができ、時間内に発表することができている。	1から4は学校の生徒の実態にあわせて段階をデザインする必要があるため、高校の現場教師が中心となつて案をつくる。とくにループリック4から5部分の「接続」部分を中心に、大学・企業等との調整を業務レベルで協働して開発する。
3	現状と、そこに至るまでのプロセスを、一連のストーリーとして語る事ができている。	フィールドワークの内容とその成果および課題について話せる事ができている。	自分たちの活動で得たデータ以外の資料等にある、多様な情報から収集したことも含めつつ、それらを根拠として探究課題とその遂行過程を整理・分析し、成果と課題を説明することができている。	図や表なども使った視覚的な工夫を加えたパワーポイントスライドを作成でき、時間内に、かつ原稿を見ずに発表することができている。	
4	現状と、そこに至るまでのプロセスを一連のストーリーとして語る事ができるとともに、その要因がどこにあるのかについて言及・表明することができている。	フィールドワーク前に基づいて、その内容・成果・課題について整理し話せる事ができている。	自分たちの活動で得たデータ以外も多様な情報から収集したことも含めつつ、それらを根拠として探究課題とその遂行過程を整理・分析し、道すじを立てて成果と課題を説明することができている。	パワーポイントのスライドに加え、話し方も工夫を加えて、聴衆を引きつけようとする。観、顔を見ながら発表することができている。	
5	達成目標を前提に、現状までのプロセスを言語化・可視化し、到達している点もしくは追加検証を加える必要がある点とを明確にできている。	フィールドワークに基づいたデータ検証や、現地で画面した課題に向かう姿勢が明確に表明できている。	自分たちの活動で得たデータ以外の資料等にある、信ぴょう性をもった多様な情報から収集したことも含めつつ、それらを根拠として探究課題とその遂行過程を整理・分析し、道すじを立てて成果と課題を表明するとともに、自分たちおよびその周囲が持続可能な形で参画できるよつにするための手だてを表明することができている。	視覚情報としてのパワーポイントと、発表の発言内容との役割を明確にし、聴衆である生徒に対し対話を促しながら相互に考え、説得力を持った発表を時間内で行うことができている。	大学や社会での学びでの前提として必要とされる能力を基準にして、5部分を設定（高校・大学・企業等との実務者で協働してループリックは開発）

ファシリテーターへの道⑩

本校で取り組んでいる「まつナビ・プロジェクト」は、地域との協働により、地域を素材にして課題研究に取り組み、本気で松浦の未来を担いたいと考える人材育成を目指しています。ですから、今年度は12月に校内発表を行い、評価の高かった5つのプロジェクトは、県内の教職員等に対して、MNPの取り組みを紹介し、地域課題解決型探究活動の普及の一助とするために、1月26日に課題研究発表を行う予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染拡大傾向が見られたために、校内発表を1月17日、課題研究発表を2月10日に延期しました。しかしながら、2月10日実施も再延期となり、3月17日に実施予定です。

「中止」も検討しましたが、生徒にとって松浦市文化会館で地域の人々に発表するこの会は、2年生にとって、今や「課題研究活動の甲子園（目標）」となっています。こういった活動（発表会）の準備もファシリテーターの重要な役目だと思います。

3-4 成果と課題

令和3年度の課題研究活動による、2年生の「まつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ① 班別テーマに基づいて、コンソーシアム等の支援を受けながら研究活動を進めることができた。
- ② 今後の研究の充実に向けた情報の収集とコミュニケーション力の育成等を行うために、生徒が事業所等の見学や体験、インタビューなどを計画し、実施できた。
- ③ 生徒がプレゼンテーション力や表現力などの発信力を身に付けるとともに、研究内容について校内で情報共有するために、課題研究活動の成果、実践についての発表会を実施できた。

(2) 課題

- ① コロナ渦もあり研究時間が不足した。
- ② 見通しを持って課題研究活動を進めていく必要があった。
- ③ 地域内での人的なネットワーク、Webを活用して広域における研究ネットワークづくりを行う必要がある。

4. ポストまつナビ(第3学年)

4-1 研究開発のねらい

2学年のときに行った課題研究を個人研究としてまとめるとともに、課題研究の内容について地元中学生にプレゼンテーションし、「ふるさと学習」の成果の共有を図るなどの地域貢献活動を行うことで、卒業後の「まつナビ・サポーター」としての意識の向上を図るなど、地域に貢献する姿勢を育成する。

4-2 令和3年度の実践活動

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	(1) 2年次の研究成果に関するレポート作成		1回					1回					
	(2) 校内発表における提案事項の校外実践							1回	2回	2回			
	(3) 小・中学校等における実践発表							2回					

4-3 実践報告

第2学年の本発表で提言した内容に関する実践、「まつナビ・プロジェクト」全体を通じた振り返りレポート作成及び中学生を対象とした発表等を行った。

(1) 2年次の研究成果に関するレポート作成・実践

「自分と将来」について考えるとともに、ふるさとへの思いを大学進学や就職など実際の進路実現に反映させるために、キャリア開発に向けて作成した本校独自の「ポートフォリオ」に3年間の研究の成果をまとめた個人レポートを作成した。なお、生徒の課題研究活動を深化させるために、本校図書館で選書を行い、不足している資料をPC等で検索し、内容を検討して、これを一覧表にまとめ、購入提案した。このように昨年度設置した、課題研究活動(まつナビ・プロジェクト)コーナーをさらに充実させた。

□購入提案のあった本(例)

- ①コミュニティ自治の未来図(編集者:大杉 覚 出版社:ぎょうせい)
- ②未来の学校のつくりかた(著者:税所 篤快 出版社:教育開発研究所)
- ③地域の教育資源を生かしたふるさと教育(著者:中島 美恵子 出版社:国土社)
- ④地域を探究する学習活動の方法(著者:内山 隆/玉井 康之 出版社:東洋館出版社)
- ⑤進化する里山資本主義(著者:藻谷 浩介 出版社:ジャパンタイムズ出版)

(2) 校内発表における提案事項の校外実践

前年度の研究活動において提案していた、松浦市での起業や民泊を薦めたり、観光案内及び水産資源を紹介したりするポスターやチラシを作成し、松浦市役所をはじめとする市内各所に掲示した。

□各班の主な活動（ポスターやチラシ作成）

1 班 A：お年寄りの憩いの場「なごみ」を紹介するポスター作り

- 新型コロナウイルス感染症対策のために「なごみ」がお休みなので、代表の神岡さんに出来上がったポスターを渡し、機会があれば使って欲しいと伝える

1 班 B：「百歳体操 松浦バージョン」のDVD製作

2 班：「農業」に関する映像をSNS上にUPする

- 1月24日からYouTubeにアップされている

3・4班（5班）：トラフグPRのポスター作り

- 駅にポスターを掲示

6 班：起業促進のチラシ作り（両面印刷）

- 市役所に地図と電話番号の記載許可をとり、市役所・商工会議所・駅に20枚ずつ設置

7 班：「竜王の滝」ポスター作り

- 市役所、プラザ、ハイマート、松尾農園にポスターを掲示

市役所とプラザのポスターには、市役所の方の提案でQRコードを貼付

8 班：民泊に関するポスター作り（受け入れ用と体験用）

- 民泊受け入れ用ポスターを市役所に、体験用ポスターを駅に掲示

◇起業促進のチラシ



◇民泊受け入れのポスター

民泊の受け入れやってみませんか？

民泊の受け入れ先減少中①

松浦では民泊受け入れが減少しています！
そこで！民泊に少しでも興味がある方！
やってみませんか？

人気の体験
・タコ漁
・船釣り
・料理体験

孫が帰ってきた感覚！

子どもたちが喜んで帰る顔！

人とのつながり

孫たちを迎える感じで一度受け入れてほしい！！

経験者からのメッセージ

<https://www.horono-taiken.jp>
まつなび8班

(3)小・中学校等における実践発表

中学校との連続性のある、地域に関する学びを構築するために、コンソーシアム構成員の支援を受けて、松浦市内の中学生に対して、これまでの地域課題解決学習の成果の発表を行った。また、商業科がサイバーセキュリティボランティアとして長崎県警からの委託を受け、松浦市、平戸市を中心とした小学校を訪問し、SNS との向き合い方等を説明した。

◇平戸市立田平北小学校訪問（長崎県警委託「サイバーセキュリティボランティア」）



4-4 成果と課題

令和3年度の課題研究活動による、3年生の「ポストまつナビ」の成果と課題は以下の通りである。

(1) 成果

- ①論理性を重視して、「ポートフォリオ」に個人の研究としてのまとめを行うことができた。
- ②地元小中学生の児童生徒と「ふるさと学習」の成果を共有し、啓発を行うことができた。
- ③卒業後に在學生（後輩たち）を支援する「まつナビサポーター」に向けた意識を育むことができた。

(2) 課題

- ①「自分ごと」としての研究活動の在り方を考え、キャリア形成（進路実現）とのつながりを強める必要がある。
- ②研究成果の発表だけでなく、共同学習等の連携等、地元小中学校との計画的な連携を進める必要がある。

ファシリテーターへの道⑩

3年生は、1学期末から2学期にかけて、就職希望者の面接試験や進学希望者の推薦入試等があり、とても忙しく大切な時期です。しかし、採用及び合格内定者等が毎週水曜日7時間目になると、2年生のときにやり残した活動を行ってくれました。それ以外も下級生にタブレットの使い方を指導したり、中学校で活動報告会を行ったり、また長崎県警から委託を受けた商業科の生徒が、小学校でサイバーセキュリティボランティアを行ったりしてくれました。ただ単に話をするだけでなく、質問をしてみたり、問題を出してみたりと工夫が見られました。ある生徒は、「SNSの使い方は、小中学生だけでなく、私たちと同じ高校生にも話をしたい」と話していました。「人に語る自信の現れ」であろうとその成長に目を見張るものがありました。

もちろん、3年生は進路実現が優先ですが、「忙しいから活動ができない」のではなく、その隙間時間を有効活用し、計画的に準備を進めることによって、自らのコミュニケーション力等をアップさせていくことができる、今後の本校の活動の良いロールモデルとなってくれました。

第3章 研究開発の内容②(研究開発単位Ⅱ)

1. はじめに

1-1 研究開発単位の設定

まつナビ・プロジェクト（MNP）の研究開発の目標を達成するために、以下の開発単位を設定した。

Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

1-2 活動目標

令和3年度の活動目標は、以下のとおりである。

地域課題解決型学習を組織的に支援する体制を新たに立ち上げると共に、具体的な研究支援を連携して進める

1-3 活動の概要

(1)地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

「まつナビ・プロジェクト」を中心に据え、本校の教育活動全般において育成を図る資質能力を「課題発見力・テーマ設定力」「論理的思考力」「コミュニケーション力（傾聴、対話、発信）」と設定した上で、カリキュラム等開発専門家である長崎大学准教授等や学年副主任やキャリア形成部といった、校内外のメンバーで構成される組織の協力を得ながら、地域との協働による探究的な学びをより充実させることを目的とした、PDCA サイクルにもとづく、カリキュラム・マネジメントを推進した。

校内においては、キャリア形成部と学年副主任で組織する「プロジェクトチーム」が中心となって、課題研究活動を含む校内外の教育活動全般の企画・実施・評価について検討した。また、ファシリテーター教職員と松浦市政策企画課を加えた「ワーキンググループ」において、実施計画等について再検討の後、コンソーシアムに「まつナビ・プロジェクト」における活動内容等について報告し、今後の研究活動等の進め方についての協議を行った。また、運営指導委員会による指導助言等を踏まえ、前述の「プロジェクトチーム」が中心となって、修正案を検討し、以後の計画等に反映させることで、生徒の深い学びの実現を目指してきた。

なお、「まつナビ・プロジェクト」の各研究活動においては、市民ファシリテーターやカリキュラム開発等専門家、地域協働学習支援員を交えた「ワーキンググループ」での振り返りを行い、研究活動の改善を図った。

(2)学校全体の研究開発体制について

年度当初に本事業についての職員全体研修を行った。また、松浦市主催の「松浦未来会議」に生

徒とともに教職員も積極的に参加して、市民と交流することでファシリテート力を向上させることを目指した。

全教職員を生徒の研究活動のファシリテーターに位置付け、松浦市職員と協働して生徒の支援に当たることとした。支援の内容や方法については、事前に活動内容について確認し、事後にはカリキュラム開発等専門家による助言を踏まえた振り返りを行った。

また、フィールドワークをはじめとする地域との協働活動においては、地域協働学習支援員がコンソーシアム等との連携を図りながら、教職員の活動を支援した。

(3)カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員の学校内における位置づけについて

カリキュラム開発等専門家及び地域協働学習実施支援員共に、分散登校等により課題研究が実施できなかった2月を除き、月に2～4回来校し、次のような活動を行うことで学校内外における課題研究を継続的に支援した。

カリキュラム開発等専門家は、生徒課題研究への指導助言、構想、中間、校内発表会やフィールドワークやバスツアー等に向けた生徒の活動でファシリテーターをつとめた教職員への助言等を行った。地域協働学習実施支援員は、生徒及び教職員の活動をサポートするために、校内での打ち合わせを行った上で、コンソーシアムを含む学校外の課題研究の支援者との連絡調整を行った。

(4)学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

プロジェクトチーム、ワーキンググループ及びカリキュラム開発等専門家等を交えて、月に1～2回程度、校長が主宰する意見交換会を開催し、研究開発の進捗状況の確認等を行うとともに、研究活動全般について検証し、その改善を図った。また、毎週水曜日の活動後は、今後の見通しなどをつけることを目的として、意見交換を行った。

(5)カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

コンソーシアムの構成メンバーである松浦市の職員が生徒の研究活動のファシリテーターとなり、本校教職員とともに生徒の支援に当たっている。7月には、松浦市長を座長に選出し、研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図るために、コンソーシアム会議を行った。

(6)運営指導委員会等、取組みに対する指導助言等に関する専門家からの支援について

運営指導委員会を7月に開催し、事業計画の承認、生徒の課題研究発表を踏まえた令和3年度事業全体の総括と今年度の課題研究計画に関する指導助言がなされた。

昨年度までの発表会について、生徒たちの主体性を感じた部分はあったが、試行錯誤を続けることによる今後の生徒の成長を期待する意見等が提示された。

また、コロナ禍により十分な活動時間の確保が難しい中、課題研究を深めた班が多くあったことがあげられた。課題としては、課題研究が提言にとどまり、実践に至った班が少ないとの意見が提示された。

2. コンソーシアム

2-1 構成

■コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者
松浦市	市長 友田 吉 泰
松浦市議会	議長 久 枝 邦 彦
松浦市教育委員会	教育長 今 西 誠 司
松浦市小中学校校長会	会長 宮 島 哲 郎
松浦市商工会議所	会 頭 稲 沢 文 員
松浦高校PTA	会 長 川 下 高 広
松浦高校同窓会	会 長 藤 田 英 敏
長崎大学生涯教育センター	センター長 中 村 典 生
長崎県立大学地域連携センター	センター長 笠 原 敏 彦
エミネントスラックス株式会社	社 長 前 田 周 二
長崎県教育庁高校教育課	課 長 狩 野 博 臣
長崎県立松浦高等学校	校 長 小野下 和 宏

2-2 活動実績

■活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年 4月 1日	コンソーシアムを組織
令和3年 7月14日	第1回コンソーシアム会議 研究開発の概要及び年間計画について確認
第1回コンソーシアム 会議を踏まえて、ファ シリテーターとコンソ ーシアム事業所等によ る協働活動	コンソーシアム構成団体の一つであるエミネントスラックス株式会社との生徒の課題研究活動に関する協働（松浦鉄道ラッピングについてのクラウドファンディング立ち上げ等）
	コンソーシアム構成団体の一つである松浦市商工会議所からの紹介による生徒の課題研究活動に関する協働（松浦鉄道松浦駅に手すりを設置する件について）
	コンソーシアム構成団体の一つである松浦市小中学校校長会からの紹介による福島養源小学校との生徒の課題研究活動に関する協働（小・高協働活動イベント開催の件について）
令和4年 3月17日 (実施予定)	第2回コンソーシアム会議 本校における令和3年度「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（高等学校における研究開発）」の取組について反省等を行い、次年度の研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図る。

3. 運営指導委員会

3-1 構成

氏名	所属・職	備考
佐々木龍二	長崎大学サテライトオフィス松浦・コーディネーター	学識経験者
吉本 諭	長崎県立大学・准教授	学識経験者
加藤 久雄	鎮西学院大学・教授	学識経験者
川浪 剛人	自営業（前まつうら創生推進室長）	地域住民代表
伊東 啓行	県企画部政策企画課 企画監	関係行政機関職員

3-2 活動実績

■活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和3年 7月14日	第1回運営指導委員会 ・令和3年度「まつナビ・プロジェクト」の事業計画を承認
令和4年 3月17日 (予定)	第3回運営指導委員会 ・令和2年度の取り組みについて報告 ・次年度の活動計画についての助言（予定）

運営指導委員会等で出された、課題とその改善点については、p80「2. 次年度に向けて（課題改善の方向性）」で示すものとする。

ファシリテーターへの道⑫

いわゆる外部機関の方との交流は、地域課題解決型学習のカギとなります。たくさんの「素敵な大人」との交流を通して、学びを**深め**、力を**伸ばし**、**進**路希望実現を図ってほしいものです。この「**深**」「**伸**」「**進**」といった学びが、松浦高校にしかない「シン化した普通科」として、令和4年度から「地域科学科」でスタートします。コンソーシアム会議や運営指導委員会でも、この話題がたくさん取り上げられました。今年度は、この「地域科学科」について、支援・協力等をお願いすることからはじまりました。松浦市唯一の高校として、本校がいかに地域から期待されているかがわかった1年でした。

何度も御意見を聞くような機会を考えていましたが、コロナ禍によって、何度も延期する運びとなりました。次年度は、もっとたくさんの地域の方の御意見が聞ける場を設定したいと思います。

4. カリキュラム開発等専門家

長崎大学教育学部准教授 井手 弘人 氏

■実施日程・内容

月	日	曜	主な助言等の内容
4	14	水	第1回ワーキンググループ協議会 ・令和2年度事業における活動計画について具体的な助言
	28	水	生徒の課題研究活動 ・課題研究構想発表会準備計画について助言
5	19	水	課題研究構想発表会における助言
	26	水	管理職及び担当者との協議 ・まつナビ・プロジェクトと教科指導との連携の在り方について助言
6	2	水	フィールドワーク準備 ・フィールドワークの手法等について助言
	16	水	フィールドワーク準備
	23	水	・フィールドワークの情報収集等について助言
	30	水	井手先生×
7	7	水	・教職員・ファシリテーターの支援の方法等について助言
	14	水	第1回コンソーシアム会議 ・今後の生徒の活動とコンソーシアムの支援について助言
	28	水	バスツアー 巡回指導・助言
	29	木	フィールドワーク 巡回指導・助言
9	8	水	第2回ワーキンググループ協議会 ・2学期の活動計画について助言
	15	水	管理職及び担当者との協議 ・今後の研究活動の内容・方法に関する助言
	22	水	中間発表会準備
	29	水	・生徒活動班へ発表の手法等の助言
10	13	水	中間発表会 ・中間発表を行った生徒活動班へ助言
	20	水	校内発表準備 ・校内発表に向けたループリック評価作成の助言
	27	水	学習報告会 ・バスツアーの検証及び助言
11	10	水	・今後の1年生のテーマ設定の方策等について助言
	17	水	オンライン会議 ・各活動班に対する今後の研究の進め方について助言
12	8	水	生徒の課題研究活動等の助言
	15	水	・校内発表会について、教職員ファシリテーターの支援の方法等について助言
1	12	水	
	19	水	校内発表会 ・校内発表を行った生徒活動班へ助言
	26	水	オンライン会議 ・1年生の課題研究テーマ設定に向けて助言

5. 地域協働学習実施支援員

日本教育公務員弘済会長崎支部 中上 徹 氏

■実施日程・内容

月	日	曜	主な助言等の内容
4	14	水	第1回ワーキンググループ協議会 ・課題研究発表会の日程の調整等
	28	水	管理職及び担当者との協議 ・1年生「松浦市とのワークショップ」のサポート
5	19	水	
	26	水	
6	2	水	バスツアー準備 ・1年生バスツアー関連の事業所等への連絡・調整
	16	水	生徒の机上活動 ・7月下旬のフィールドワークに関する希望等について生徒からの聞き取り、準備等
	23	水	・フィールドワークの日程の調整等
	30	水	
7	7	水	第1回コンソーシアム会議 ・コンソーシアムとの連携の在り方について確認 教職員とフィールドワークについて打合せ フィールドワーク 松浦市巡回
	14	水	
	28	水	
	29	木	
9	8	水	第2回ワーキンググループ協議会 ・2学期の活動の中で、外部との連携について協議 管理職及び担当者との協議 ・今後の外部との連携について打合せ
	15	水	
	22	水	
	29	水	
10	13	水	中間発表会
	20	水	校内発表準備 ・第2回目のフィールドワークの日程の調整
	27	水	学習報告会 ・課題研究テーマ設定に向けたカリキュラム等開発専門家との打合せ
11	10	水	校内発表準備 ・第2回目のフィールドワークの日程の調整
	17	水	オンライン会議 ・各活動班に対する今後の研究の進め方の助言
12	8	水	生徒の課題研究活動等の支援 ・松浦市や事業所との協働活動の調整
	15	水	
1	19	水	校内発表会 ・校内発表参観
	26	水	オンライン会議 ・1年生の課題研究テーマ設定に向けて外部機関への連絡・調整

第4章 まつナビ・プロジェクトの検証、次年度に向けて

1. 今年度の目標設定についての検証

(1) 評価方法

地域課題解決型学習の成果と課題を明らかにするため、以下のような方法でアンケートを実施し、分析を行った。

- ①対象 全校生徒 236名（1年84名、2年94名、3年58名）
- ②時期 1回目 令和3年4月（令和3年度の地域課題解決型学習実施前）
2回目 令和4年2月（校内発表会実施後）

(2) 成果目標

- ①地域の課題を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したいと思う生徒の割合（今年度目標：80%）
今年度は1～3年生に対する4月調査44.6%、2月調査47.9%であった。生徒の意識は高まっているが、目標にはまだ届いていないため、これからの課題研究活動において、生徒の主体性を高める取組を一層進める必要がある。
- ②高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職する生徒の割合（今年度目標：75%）
今年度は77.8%であった。地元で貢献したいとの意識の高まりが感じられる。
- ③高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したいと考える生徒の割合（今年度目標：60%）
今年度は1～3年生に対する4月調査48.3%で、2月調査では28.5%であった。コロナ禍で地元就職が厳しい状況にあり、進学後の就職先も「都会志向」になったと推察する。
- ④大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学した生徒の割合（今年度目標：35%）
今年度は64.2%であった。昨年度は44.8%であったことから、地域活性化に向けた課題研究と自らのキャリア・プランニングとつながりを一層強める取組ができた。

(3) 地域人材を育成する高校としての活動指標

- ①学校外での活動回数（今年度目標：35回）
今年度は30回であった。コロナ禍により、分散登校や県独自の行動制限等があったこともあり、活動回数を確保することが難しかった。

②先進校としての研究発表回数（今年度目標：3回）

構想研究発表、中間発表、校内発表の計3回実施した。2月10日に予定していた松浦市文化会館での課題研究発表会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から延期した。

③2年次の「まつナビ」の中で、フィールドワークにおいて地元の方にヒアリング・インタビューする生徒の割合（今年度目標：95%）

フィールドワークに参加した生徒の70.2%がヒアリング・インタビューを実践した。

④高校3年間の中で、地域への貢献活動・まちゼミ・地域でのボランティア活動に参加する生徒の割合（今年度目標：70%）

今年度は地域におけるボランティア活動参加率は98.3%であった。

(4)地域人材を育成する地域としての活動指標

①『まつナビ・プロジェクト』に関わった外部人材の人数（今年度目標：140人）

ファシリテーターとしての支援やフィールドワークにおける協力してもらうなど、今年度は184人が『まつナビ・プロジェクト』に関わった。

②コンソーシアムの活動回数（今年度目標：3回）

今年度は7月、2月、3月の3回実施予定であったが、1月26日に予定していた第2回会議は、コロナ禍により中止とした。

（3月17日（木）松浦市文化会館会議室にて実施予定）

ファシリテーターへの道⑬

「コロナ禍」を言い訳にしない。生徒の歩みを止めない。このような決意をもとに、令和3年度はスタートしました。「だからこそ楽しく」とカリキュラム等開発専門家の長崎大学井手弘人先生をはじめとして、支援いただいている地域の方々と何度も意見交換して、活動を盛りあげようと努力してきました。

地域に対して私が発信したいことの一つは、決してこの「まつナビ・プロジェクト」が、進路実現に向けて、「ムダ」で「余計な活動ではない」ということです。そのために教科指導と総合的な探究の時間、それとこの学校設定科目が一つになってヨコとタテのつながりを意識しながら、活動を進めることを心がけました。その活動に意味があるといった価値づけもファシリテーターの大切な役割だと思います。例えば、地理で「世界の気候」を学習して意味があるのか？これにしっかり答えられるのが教員です。なぜ答えられるのかというと、「専門分野」だからです。

ですから、課題研究活動も「専門分野」になれば、学ぶ意味を語れるはずですが、まだまだ私も勉強不足ですが、いつの日か必ず、それを熱く語れるファシリテーターになろうと思います。ですが、忘れてはいけないことは、生徒、保護者、地域にとって、教職員は「ティーチャー」なのです。ですから、今、流行りの「二刀流」で、地域を巻き込みながら、生徒、教職員一体となって頑張っていきたいと思っています。

2. 次年度に向けて(課題改善の方向性)

(1) 研究開発単位Ⅰについて

①課題：松浦市だけでなく、近隣都市なども視野に入れた課題研究活動

改善点：今年度導入された生徒「一人1PC」を活用する取組をさらに進め、本校単独の活動にとどまらず、県内外の高校や大学等とのネットワークを構築し、地域と学校活性化を目標とした学びを推進する。

②課題：見通しをもった高校生らしい研究活動

改善点：「課題研究活動が提案にとどまる班が多い」といった7月の第1回運営指導委員会での助言について、その課題を解決するために、発表会直前に「一夜漬け」のような研究活動を行うのではなく、実践活動から逆算した、研究計画について立案や考察をさせる取組を進める。

③課題：過年度研究に頼らない、新しく斬新な課題研究・テーマ設定

改善点：過年度の活動を受け継いだ「新しさ」「斬新さ」に欠ける研究テーマが増えていることを解決するために、生徒が自らのキャリア・プランを念頭において、より主体的に課題研究テーマを設定することができる取組を行う。

④課題：キャリア形成につながる課題研究テーマ設定

改善点：中学校と高校、高校と大学及び企業等が連携した生徒個々のキャリア形成の涵養とSDGsを踏まえた地域課題解決型探究活動をさらに充実させていく。

⑤課題：地域科学科のアピールと説明

改善点：教科等横断的な学びを含む、生徒有能感を高めることができる教育活動の活性化と学習評価をさらに充実させる。

(2) 研究開発単位Ⅱについて

①課題：地域を大切に作る姿勢の育成

改善点：コンソーシアムと協働して課題研究の具体的な活動（調査・研究、考察、実践）を支援する体制を構築する。

- ・小中学校の児童生徒との計画的な交流を進めるため、地元教育委員会及び小中学校校長会との協働を推進する。
- ・生徒のロールモデルとなり得る、地域の「素敵な大人」との交流を進めることができるよう、関係団体との連携を強める。

参考資料

1. アンケート調査結果

p 82 「1. 今年度の目標設定についての検証」についての説明根拠資料

①対象 全校生徒 236名（1年84名、2年94名、3年58名）

②時期 1回目 令和3年4月（令和3年度の地域課題解決型学習実施前）

2回目 令和4年2月（校内発表会実施後）

4：とてもそう思う。3：まあそう思う。2：あまりそうは思わない。1：全くそうは思わない。

<松浦に関する知識>

- ア 松浦の歴史や文化について、知っている。
- イ 松浦の自然について、知っている。
- ウ 松浦の産業やその特色などについて、知っている。
- エ 松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。
- オ 地域の課題解決の方法を、考えたことがある。

<ふるさとや松浦に対する意識>

- カ 自分のふるさとや松浦のことが、好きである。
- キ 地域の課題を解決したり、地域を活性化したりする活動に、興味を持っている。
- ク 自分のふるさとや松浦を訪れる人やUターン者の移住者から多くのことを学んでみたい。
- ケ 地域課題の成果を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。（そう思ったことがある）

<進学希望先別の意識>質問コ、質問サ及び質問シのうち、当てはまるものを教えてください。

コ 高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。（長崎県内就職も考えている）

サ 高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい。

（Uターン先は松浦市ではなく「長崎県内」です。進学希望者は大学だけでなく、短大、専門学校等も含まれます。）

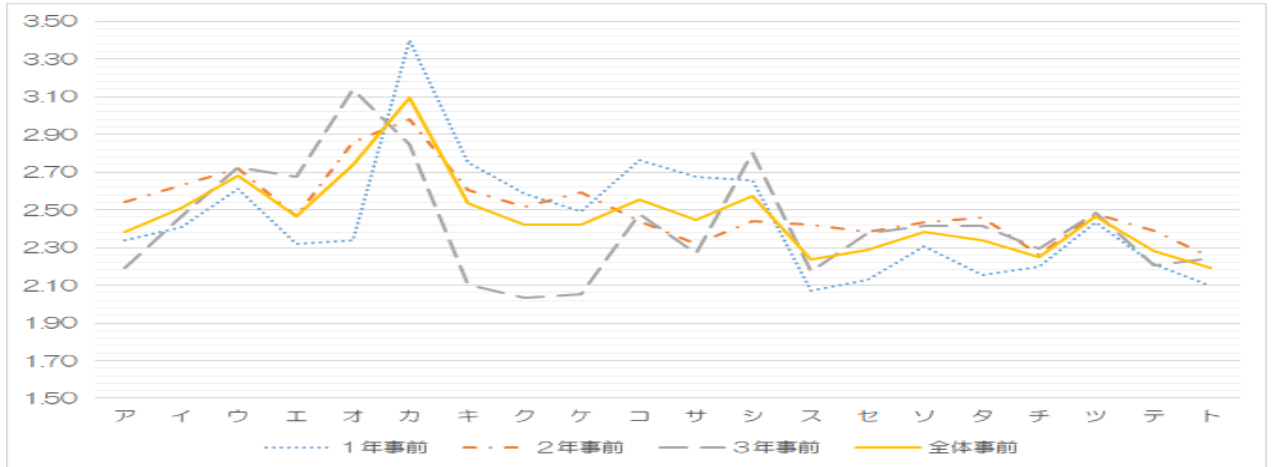
シ 大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学したい。（大学等とは四年制大学及び短大です。学部・学科は地域系、経済系や社会学系、国際系及び教員養成、文学・語学系、保育等です）

<自分の学力の分析>

- ス 自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある。
- セ 自分は、フィールドワークの結果を分析する力がある。
- ソ 自分は、地域の課題を改善する方法を考える力がある。
- タ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。
- チ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。
- ツ いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。
- テ ふるさとに関する課題を発見し、研究テーマを設定する力がある。
- ト 道理や筋道に従いながら考え結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。

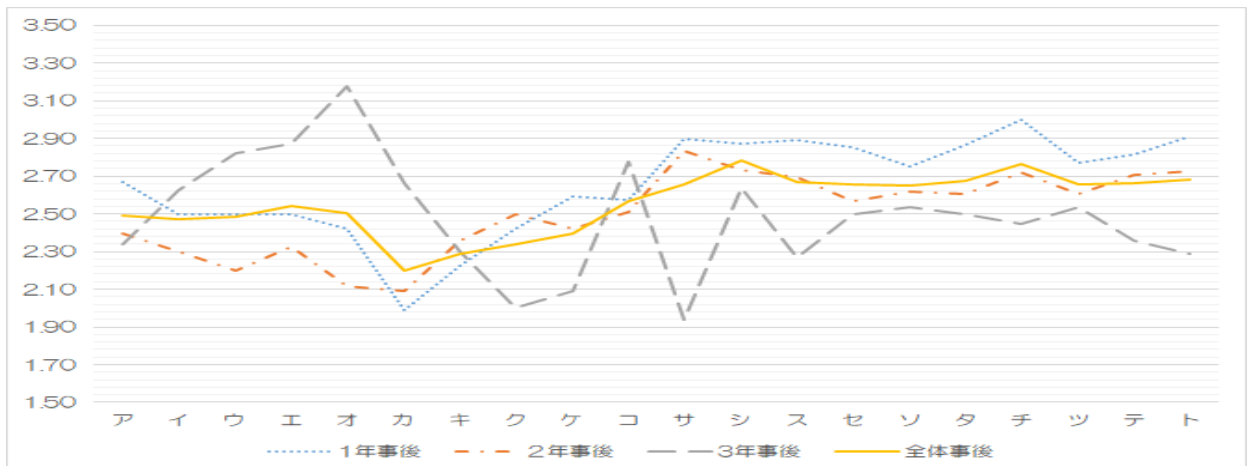
■ 1回目 令和3年4月（令和3年度の地域課題解決型学習実施前）実施分

1年生は質問カ「自分のふるさとや松浦のことが、好きである。」の回答がどの学年よりも高い。質問タ「自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。」が他学年よりも高くなっている。



■ 2回目 令和4年2月（校内発表会実施後）実施分

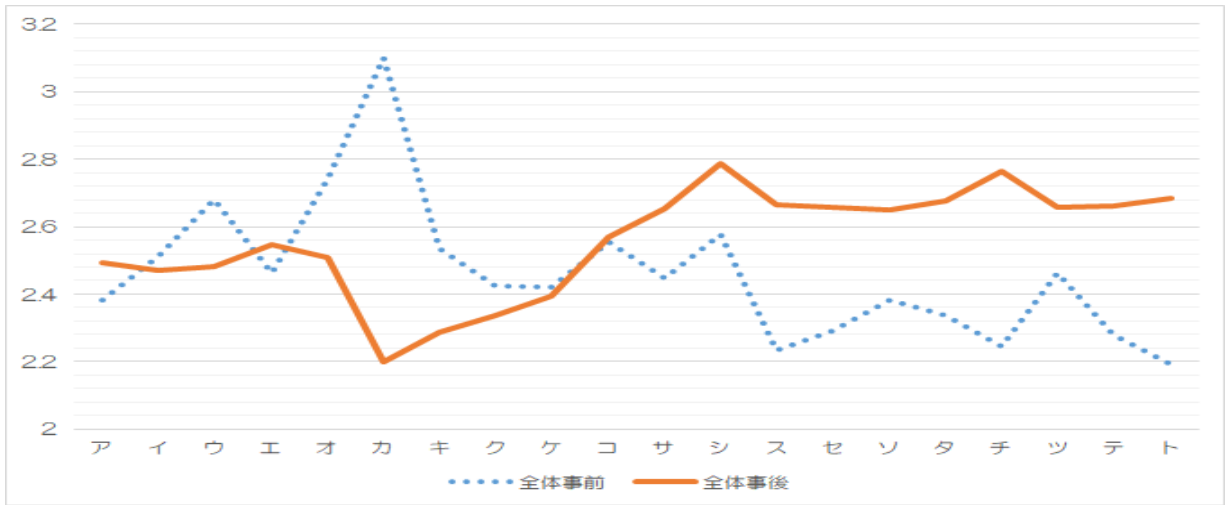
3年生が質問オ「地域の課題解決の方法を、考えたことがある。」の回答が他学年よりも高くなっている。また1年生は＜自分の学力の分析＞質問ス～トについての回答が全て他学年よりも高くなっている。



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1年事後	267	250	250	250	242	199	222	242	259	258	290	287	289	286	275	287	300	277	282	291
2年事後	239	230	220	233	212	209	236	250	242	251	284	273	270	257	262	261	272	261	271	272
3年事後	234	263	282	288	318	266	230	200	209	278	194	264	227	250	254	250	245	254	236	229
全体事後	249	247	248	255	251	220	229	234	239	257	265	279	267	266	265	268	277	266	266	268

■全体比較（事前・事後）

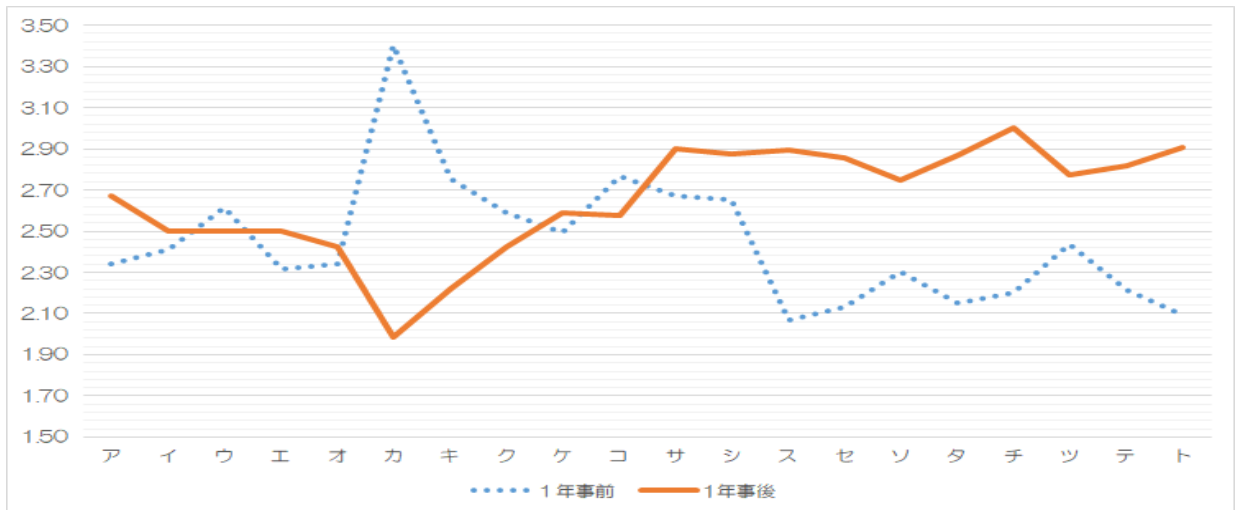
全学年で見ると、質問セ～トまでが、事前よりも事後は高くなっている。質問力「自分のふるさとや松浦のことが、好きである。」は事前に比べ大幅に下落している。



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
全体事前	24	25	27	25	27	3.10	25	24	24	26	24	26	22	23	24	23	22	25	23	22
全体事後	25	25	25	25	25	2.20	2.3	2.3	2.4	2.6	2.7	2.8	2.7	2.7	2.6	2.7	2.8	2.7	2.7	2.7

■学年別（1年生「プレまつナビ」）

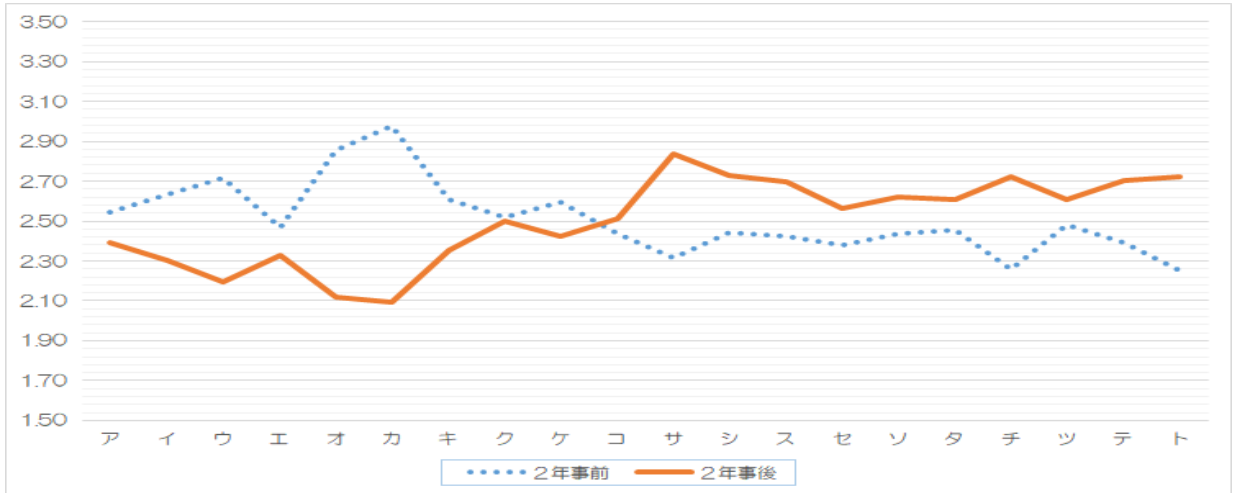
質問力「自分のふるさとや松浦のことが、好きである。」は事前に比べ大幅に下落している。質問チ「自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。」の事後は、事前を大きく上回っている。



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
1年事前	2.34	2.41	2.61	2.32	2.34	3.40	2.75	2.59	2.49	2.77	2.67	2.66	2.07	2.13	2.31	2.15	2.20	2.44	2.21	2.09
1年事後	2.67	2.50	2.50	2.50	2.42	1.99	2.22	2.42	2.59	2.58	2.90	2.87	2.89	2.86	2.75	2.87	3.00	2.77	2.82	2.91

■学年別（2年生「まつナビ」）

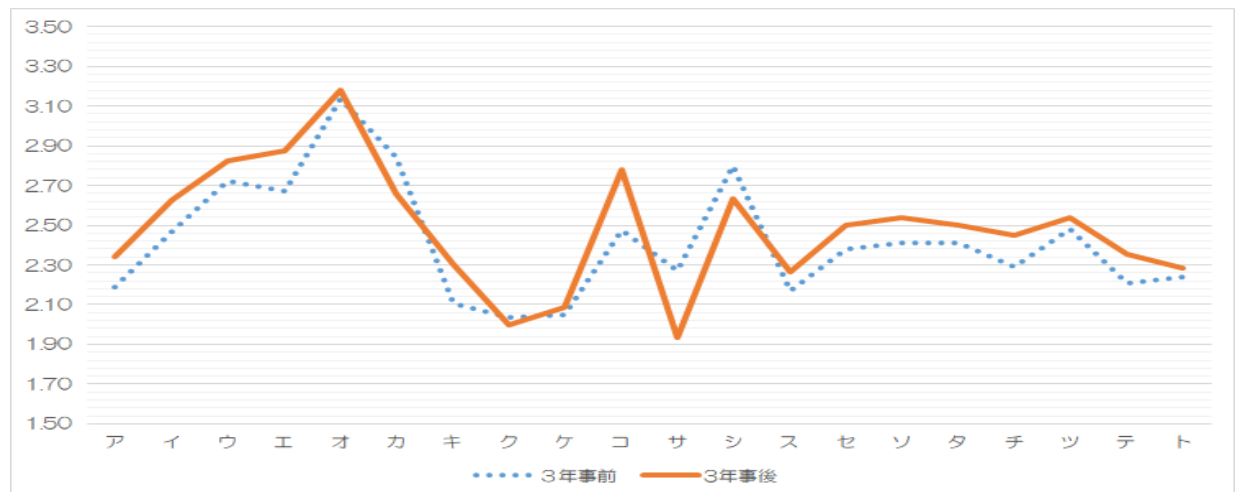
2年生で最も高かった回答は、質問サ「高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にシターンして就職したい。」(2.80)であった。次いで、質問ト「道理や筋道に従いながら考え結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。」(2.71)であった。



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
2年事前	254	263	272	247	286	298	261	252	259	244	232	244	242	238	243	246	226	248	239	225
2年事後	239	230	220	233	212	209	236	250	242	251	284	273	270	257	262	261	272	261	271	272

■学年別（3年生「ポストまつナビ」）

3年生は事前、事後ともほぼ同じような結果となった。特徴的な回答は、質問コ「高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。（長崎県内就職も考えている）」であり、事前の2.48から2.78と増加している。



	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
3年事前	219	247	272	267	314	284	210	203	205	248	227	280	217	238	241	241	229	248	221	224
3年事後	234	263	282	288	318	266	230	200	209	278	194	264	227	250	254	250	245	254	236	229

「まつナビ・プロジェクト(MNP)」スタート

はじめに

今年度も「まつナビ・プロジェクト」がはじまりました。昨年度までは総合的な探究の時間で実施していましたが、今年度からは、学校設定科目を中心として、主に水曜日の七時間目に活動を行います。今年は今ままで以上に深い課題研究活動ができるようになりました。

また、今年度の二年生の「まつナビ」では、子育てや国際交流、スポーツ、医療など幅広い分野で十班に分かれて地域課題研究に取り組んでいきます。

私たちは「まつナビ」で、「自分たちの研究テーマは、松浦の方々のニーズにあっているのか」「私たち自身が取り組めることは何か」など、心をなやましていき、松浦をよりよくするための活動を行っていきます。



課題研究テーマを決める2年生



新入生研修でMNPの説明を聞く1年生

8つのフースに分かれて活動したよ



松高マスコット まつドリー



長寿介護課のブース

「まつナビ・プロジェクト」では、多くの地域の方々に御支援いただいています。

四月二十八日(水)には、二年生の研究活動で、松浦市のことについて疑問に思ったことなどをフース形式で松浦市各課の方に尋ね、説明を受けました。難しい内容もありましたが、私が参加したフースでは、説明を一方向的に聞く形式ではなかったので、楽しくて、あっという間に時間が過ぎました。

今年の作成者(二年生)

吉原 葉月さん(御厨中出身)
川原 芽衣さん(御厨中出身)



課題研究活動班による研究構想発表

五月十九日(水)六・七校時に、私たちが取り組んでいる課題研究活動について、これからの研究構想を発表しました。他の班の発表では、私たちにはなかった、多くの人たちに聞いてもらうための説明の方法、パワーポイントを使ったスライドの工夫、アンケート方法など、取り入れたいことがたくさんあり、とても勉強になりました。私たちもしっかりと「振り返り」を行い、研究構想を見直したいと思います。

課題研究構想発表会

松高生による
まつナビ・プロジェクトだより

校外での課題研究活動に向けて

松高生による まつナビ・プロジェクティブ



7月29日(木)には終日フィールドワークが実施されるよ



松高マスコット まつドリ

フィールドワーク事前研修会
六月十六日(水)七時間目、一年生の私達は、一日かけて初めて行う「フィールドワーク」の事前研修会を行いました。
長崎大学の井手先生による研修会で、主にアンケートやインタビュー調査の種類やその方法などを具体的に説明していただきました。この研修会で学習したことを踏まえて、本格的なフィールドワークの準備に入ります。



フィールドワークに向けて

六月二十三日(水)七時間目、フィールドワークに向けた準備をはじめました。

私たちの班は、松浦市の子育て支援について研究を進めています。そこでアンケート調査内容を考えたり、アンケートに行く場所を絞ったり、調査対象を決めるなど、具体的な話し合いを行いました。また、市内の子どものためになる古書を集める計画を立てています。今は、案内文書を作り、回収を行っている最中です。



MNP 概要説明会

六月二日(水)七時間目、三年生の先輩方である、深見純矢さん(志佐中出身)、田郷美羽さん(御厨中出身)に、一年生に「まつナビ・プロジェクト(MNP)」の概要について説明していただきました。

まつナビの課題研究活動の流れや、これまでの活動報告を中心とした説明がありました。来年は私たちが後輩たちにしっかり説明できるように、たくさんの方に活動にチャレンジしたいと思います。

バスツアーに向けて

一年生も、バスツアーに向けての準備をはじめています。

私たちが昨年企画した、「陸」「水」「街」「島」の四つのルートをもとに、

- ①新しいルートを設定するの
- ②昨年のルートを中心に新たに訪問場所を追加変更するの

などを四つの班で話し合っています。

私たちが一年生のときは、初めての「バスツアー」だったので、ゼロから計画を立て大変でしたが、他の学校にはない、生徒が、自ら目的を決めて行うバスツアーなので、たくさん意見を出し合っていて、楽しんでほしいです。



今年の作成者(二年生)

- 松田 彩那さん(志佐中出身)
- 松永樹利愛さん(田平中出身)
- 宮崎 菜美さん(鯛川中出身)



まつナビ・プロジェクト

検索 CLICK!

本冊子に掲載した★のついたワークシート等は、本校 Web ページからダウンロードできます。

長崎県立松浦高等学校

〒859-4501 松浦市志佐町浦免738-1



☎0956-72-0141 (事務室)

☎0956-72-0142 (職員室)

<https://www.news.ed.jp/matsuura-h/>

